

令和5年度（2023年度）
教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検
及び評価の結果についてに関する報告書

令和6年（2024年）8月

東海市教育委員会

目 次

I	点検・評価の目的と概要	1
II	教育長及び教育委員会委員の活動状況	2
III	外部有識者からの意見等	5
	1 総合計画に基づくまちづくりに関する評価	
	2 東海市教育ひとづくり審議会における意見等	
IV	教育委員会における検証・評価	7
	1 学校教育	
	2 社会教育	
	3 文化・芸術	
	4 スポーツ	
	5 まとめ	
V	資料	
	分野別成果動向一覧表	1 4
	施策10 子どもたちにとって楽しい学校をつくる	1 6
	施策11 学校、家庭、地域が連携して子どもの健全な成長を支える ...	2 2
	施策12 青少年が健全で心豊かに成長できる環境をつくる	2 5
	施策13 マナーが守られ思いやりにあふれる地域をつくる	2 8
	施策14 楽しみや生きがいを感じるまちをつくる	3 1
	施策15 だれもが気軽にスポーツを楽しむ元気なまちをつくる	3 4
	施策16 文化に親しみ心豊かなまちをつくる	3 7
	施策17 郷土の歴史や文化を大切に継承する	4 0
	令和5年度（2023年度）教育委員会主要事業点検・評価表	4 3

I 点検・評価の目的と概要

効果的な教育行政の推進と、その状況の住民への説明責任を果たすため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づいて、教育委員会が令和5年度（2023年度）に実施した事務・事業の管理及び執行の状況について点検及び評価を行った。

点検及び評価としては、平成26年度（2014年度）より始まった第6次東海市総合計画に関して、有識者、まちづくりを担う各種団体を代表する者等で構成する「東海市まちづくり評価委員会」による専門的・客観的な評価の関係業務部分を活用することを基本とし、併せて、教育委員会が実施した施策の主要事業における自己評価を、教育委員会の諮問に応じ、教育に関する重要事項について調査審議等を行う「東海市教育ひとづくり審議会」に付議し意見聴取を行った。

それらの意見を踏まえた上で、学校教育、社会教育、文化・芸術、スポーツの4分野に分け、教育の振興に関する基本的計画である「とうかい教育夢プランⅡ」や、市全体の文化創造の基本的計画である「東海市文化創造プラン」も含めて、最終的な教育委員会としての検証・評価を行った。

本報告書は、これら外部有識者や市民等による教育に関する幅広い知見の活用を図った点検・評価結果について公表するものである。

Ⅱ 教育長及び教育委員会委員の活動状況

1 教育長及び教育委員会委員

- (1) 教育長及び教育委員会委員の在任状況（令和6年3月31日現在）

教育長：2期目

教育委員会委員：2期目 1人、1期目 4人

合計5人（平均年齢57歳）

- (2) 教育長及び教育委員会委員（令和6年3月31日現在・敬称略）

職名	氏名
教育長	加 藤 千 博
教育委員会委員（教育長職務代理者）	木 村 敏 幸
教育委員会委員	久 野 友 士
教育委員会委員	石 川 真理子
教育委員会委員	村 上 直 人
教育委員会委員	堀ノ口 香 織

- (3) 教育委員会の開催状況

定例会：12回（要望事項0件）

臨時会：2回

議事件数：169件（議案33件、承認11件、報告事項125件）

- (4) 教育長及び教育委員会委員の主な活動

教育長は、教育委員会の会務を総理し、教育委員会を代表するため、教育・文化・スポーツ等に関する事務を処理し、教育委員会各課等の実施する事業へ参加する他、市主催の事業等に参加し、教育委員会の代表として幅広く活動することで、教育委員会職員や市長部局職員だけでなく、市民や市と関係のある方々と意見交換も行い、関係構築に勤めた。

教育委員会委員は、上記の教育委員会定例会・臨時会の他、教育委員会各課等の事業に月平均4回出席し、意見を述べるなど積極的に活動し、教育委員会全体の活性化に貢献した。特に1年間の東海市の教育の柱となる「教育基本方針」の策定に向けては、教育委員会定例会の前後に教育委員会各課等の長と施策や事業の課題について協議し、方針の決定に大きな役割を果たした。また、市内小中学校に対しては、各校の実施する学校訪問への参加を自主的に増やし、学校現場をしっかりと見た上で教職員へ意見や助言を述べるよう勤めた。

その他、教育委員会は市長部局と総合教育会議において、「細井平洲先生の教えと郷土の歴史の継承の取り組み～ふるさとを愛する心を育み、互いを思いやる心を育てる教育～」について協議し、子どもが楽しく学び、活動することができる

学校の実現に努めた。

また、知多地方教育事務協議会等へ参加し、他市町との情報交換にも努めた。

教育長及び教育委員会委員が出席した主な事業等は次のとおりです。

令和５年度（２０２３年度）教育委員会の主な事業等一覧

開催月	事業名
４月	教職員管理職辞令伝達式
	知多地方教育事務協議会
	小中学校入学式
	平洲会評議員会
	総合計画審議会全体会
５月	小中学校ＰＴＡ連絡協議会総会
	平洲会総会
	知多地方教育事務協議会
	優良児童生徒顕彰式・学思行賞表彰式
	国際交流協会理事会・総会
	平洲祭交流会
	平洲祭
６月	市内小中学校訪問
	総合計画審議会部会
	へいしゅうカルタ最優秀賞表彰式
７月	愛知県市町村教育委員会連合会総会・研修会
	中学生親善交流事業（米沢市）表敬訪問・対面式
	市町村教育委員会教育長・教育委員研究協議会
８月	教職員全体研修会
	総合計画審議会部会
	小中学校ＰＴＡ連絡協議会教育懇談会
９月	第１回総合教育会議
	知多教育懇談会
	沖縄体験学習報告会
	市内小中学校訪問
１０月	知多地方教育事務協議会
	教育事務協議会委員研修会
	小学生親善交流事業（釜石市）報告会
	総合計画審議会全体会
	校長会教育予算要望の会
	教職員組合教育懇談会
１１月	第２回総合教育会議

1 2 月	沖縄市親善交流事業表敬訪問
	東海ハーフマラソン2023
	小学校林間学習事業現地視察
	地方教育委員会面談
	市長への予算要望の会
1 月	20歳（はたち）の集い
	知多地方教育事務協議会
	東海市教職員表彰選考会
	地方教育委員会面談
	東海市表彰審査委員会
	第3回総合教育会議
2 月	へいしゅうカルタ表彰式
	東海市教職員表彰式
3 月	奨学金支給審査会
	小中学校卒業式
	知多地方教育事務協議会
	国際交流協会理事会
	小学生親善交流事業（米沢市）報告会
	退職教職員辞令交付式・役職定年校長と市長との懇親会

(5) 教育委員会の活動の情報発信

教育長・教育委員会委員名簿、教育委員会事務局、学校の概要、教育委員会の施策及び事業、教育委員会定例会の会議録等を東海市のホームページや市の広報紙に掲載し、情報を提供している。

Ⅲ 外部有識者からの意見等

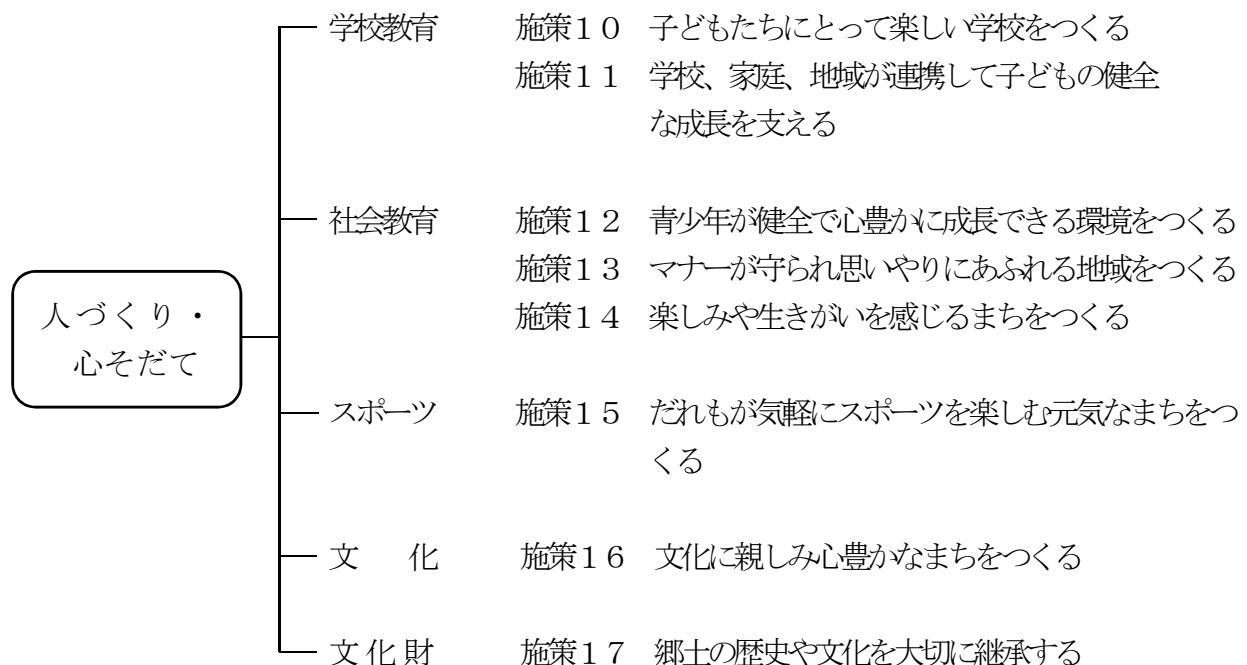
1 総合計画に基づくまちづくりに関する評価

平成26年度（2014年度）からの第6次東海市総合計画は、「ひと 夢 つなぐ 安心未来都市」を将来の都市像として、その実現に向けて取り組みを行ってきた。その中で、教育関連については下記のと通りの施策体系となっており、それに対して、まちづくり指標の動向や、めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価を、東海市まちづくり評価委員会に提出し、総合計画に基づくまちづくりに関する評価報告を受けた。

その結果、教育関連の「人づくり・心そだて」の施策の成果動向は、「順調」が2施策、「横ばい」が3施策、「順調でない」が3施策となり、分野全体の成果動向は、「横ばい」と評価する。

子どもたちの学びと成長環境の質を向上させるための具体的な課題解決と施策の改善を図るため、教員の指導の質向上、不登校対策など、学校現場で直面する課題への対応が必要である。

また、部活動の地域移行や地域との連携の強化も重要であり、これらを通じて子どもたちが楽しく学び、健全に成長できる環境を整える必要がある。



2 東海市教育ひとづくり審議会における意見等

教育委員会では、学識経験を有する者等で構成され、教育委員会の諮問に応じ、教育政策の重要事項に関する審議や、教育政策に対する意見を述べる「東海市教育ひとづくり審議会」を設置している。

令和5年度（2023年度）に実施した主要事業の状況について、P43～P72の点検・評価表に基づき報告を行い、東海市教育ひとづくり審議会委員から次の意見を受けた。

- ・不登校対策事業について、近年、コロナ禍における行動制限等の影響もあり、不登校の児童生徒数が増加傾向にあると認識しているが、スクールカウンセラーがその対応を十分に行うためには、勤務時間数が不足していると感じている。不登校対策には、事前予防のための心理教育が有効と考えており、その対策のための時間を確保するためにも、勤務時間の拡大を検討して欲しい。
- ・放課後子ども総合プラン推進事業について、子ども教室におけるスポーツ等体験会の多くが1回限りのものとなっている。子どもたちの継続的なスポーツ活動に繋げるため、また、利用者等から体験回数を増やしてほしいとの意見を聞いていることから、複数回実施することを検討して欲しい。
- ・学習支援教室開催事業について、近年、進学には経済的に豊かであることが必要であることから、経済的な事情を抱える家庭への学習支援に力を入れる等をし、今後も当該事業に継続して取り組んで欲しい。

IV 教育委員会における検証・評価

1 学校教育

令和5年度（2023年度）における学校教育分野の主な事業としては、楽しく学校生活を送るための各種サポート事業と、社会の変化に対応できる力（たくましく生きぬく力）を養うための各種体験学習事業が挙げられる。

各種サポート事業では、児童生徒に対し必要な支援をするため、目的に応じて特別支援教育支援員及び障害児サポーター、読書活動サポーターを配置し、学校生活の支援の充実を図った。また、各種サポート事業以外にも不登校やいじめの原因解消と子どもたちが抱える課題の早期発見につなげるため、心の相談員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによりいつでも相談のできる、また、さまざまな観点から児童生徒の様子に気づくことができる環境の整備に努めた。

課題としては、特別な配慮を必要とする児童生徒が増加傾向にある中、人的な支援を継続し、最大限の効果が上がるため各種サポーター等の有効な配置について検討していく必要がある。

次に各種体験学習事業では、小学校の林間学習は1泊2日で実施をし、集団での自然体験活動を通してより良い人間関係を築くとともに、通常の学校生活とは異なる体験をすることで、心身ともに調和のとれた健全な育成を図った。

また、中学校の沖縄体験学習では、東海市と異なる自然や文化体験を通して東海市を客観的に見つめるとともに、平和学習により命や平和の大切さを学ぶ機会とし、これらの体験を通して子どもたちが豊かな人間性を育んでいるものと認識している。

次に、国の「GIGAスクール構想」により児童生徒一人一台端末を活用した授業を令和3年度（2021年度）から行っており、それぞれ年次目標を定めながら進めている。そのような中で、ICT機器を活用した授業に教員が早く慣れ、より深い学びができる授業を行えるようにするため、ICT支援員を配置したり、ICT教育推進委員会を設置し有識者から助言を受けたり、学校間の情報交換を行ったりした。

とうかい教育夢プランⅡ（以下「夢プランⅡ」という。）の方向性との関連で見した場合、夢の姿1「子どもたちが笑顔にあふれて成長している」について、「不登校の児童生徒の割合」は、基準値、前年度数値から増となっており、課題のある児童生徒の増加や、中1ギャップが大きかったこと等が要因と考える。心の相談員やスクールカウンセラー等複数の職員が児童生徒に関わるグループ支援を継続するとともに、令和2年度（2020年度）から配置をした社会福祉の専門的な知

識を有するスクールソーシャルワーカーにより、関係機関と連携して支援に取り組んでいる。

また、「学校が楽しいと感じている児童生徒の割合」は、前年度とほぼ同水準で、「好きな授業がある児童生徒の割合」や「学校の授業がわかりやすいと答えた児童生徒の割合」についても高い割合を維持していることから、教員研修センターによる研修が教員の授業の工夫に効果をあげ、学校や授業を楽しんでいると感じさせているものと考えている。

続いて、夢の姿2「子どもたちが学びと体験をとおして志をもって成長している」については、林間学習や沖縄体験学習など体験をとおして子ども達のこころと身体が調和のとれた育成を図る取組みを行っている。次に「夢や目標を持っている児童生徒の割合」や「外国の生活や文化に興味がある児童生徒の割合」については前年度から横ばいであり、基準値と比較すると低下している状況である。デジタル化の進展による体験機会の減少や、関心のある情報だけに触れ、幅広い情報に触れる機会が減少したことによるものとする。体験学習事業や姉妹都市交流事業などにより、未来を担う子どもたちが新たな出会いや実体験を通じて将来の夢や目標につなげることができるよう、今後も「たくましく生きぬく力」を養う教育を推進していく。

2 社会教育

令和5年度（2023年度）における社会教育分野の主な事業としては、放課後子ども総合プラン推進事業及び図書館運営事業が挙げられる。

放課後子ども総合プラン推進事業の放課後児童健全育成事業では、児童の入退室管理システムの導入、利用料等のキャッシュレス決済導入等のICT化により児童の安全性及び保護者の利便性を向上するなど、市民のニーズに沿った展開がされていると認識している。

課題としては、放課後児童クラブの利用者数が著しく増加しているクラブがあるため、利用者の増加状況に応じて、クラブ数や実施場所の拡大、指導員の確保に努める必要がある。

次に図書館運営事業では、幅広い世代の市民に親しまれる図書館を目指し、市民向け講座の他、読み聞かせボランティアの協力による子ども向けイベント等を実施し、図書館をより身近に感じるきっかけとした。開館から5年を経過した横須賀図書館も利用が増えており、貸出総数も増加してきている。今後も市民が図書館をより身近に感じ、読書に親しむ機会を確保することが重要であると認識している。

課題としては、来館困難等図書館の利用がしづらい市民の読書環境の確保や、

読書意欲の低下が見受けられる若年層への情報発信などがあり、市民のあらゆる読書要望に応えられるように蔵書充実と環境整備をする必要がある。

夢プランⅡの方向性との関連で見た場合、夢の姿2「子どもたちが学びと体験をとおして志をもって成長している」について、家庭学習が十分でなく、学習習慣が身につけていない中学生を対象に、学習習慣を身に付けることで基礎学力の向上を支援する学習支援教室開催事業を市内2箇所で開催した。2箇所とも良好な出席率であり、中学3年生の参加者全員の進学が決定するなど、気軽に参加できる雰囲気をつくることができた結果と考える。課題としては、生徒の学習方法もタブレットを活用したものにシフトしていることから、必要な環境整備を検討する必要がある。

夢の姿3「市民が思いやりの心をもち安心して暮らしている」について、子ども教室開催事業においては、令和4年度（2022年度）から引き続き拡充して実施しているスポーツ等体験機会の中でも、サッカー教室を初めて校庭で実施した。また、感染対策として行っていた、児童の人数制限を解除し、講師が定める定員に戻して実施したため、多くの児童に様々な体験機会を提供できた。

また、ふれあい交流推進事業においては、異年齢の子ども同士や地域住民と子ども達等多世代交流の場を提供できた。家庭教育推進事業においては、保護者同士の交流が持てたり、子どものしつけやコミュニケーションの取り方などについて理解を深めたりするなど、家庭教育への意識を高めることができた。家庭教育推進事業の課題としては、家庭内等で保護者と子どもの会話やふれあいが増進する方法を伝え、保護者と子どもの良好な関係を築いた上で、正しいマナー等の教え、保護者自身も再確認することができる機会を提供していく必要がある。

続いて、夢の姿5「市民が地域を愛し、伝統や歴史が次世代につながっている」については、「郷土の歴史などに愛着を持っている人の割合」は基準値と比較して低下しており、「15歳～30歳の若者のなかで、伝統文化を継承している団体に所属している人の割合」は、基準値と比較して、ほぼ横ばいで推移している。これは、地域のまつり等の伝統文化を継承する団体の積極的な活動等により、団体に所属する若者は増加してきたものの、市民に対して伝統文化や郷土の歴史への愛着につながりにくかったためと考えられる。今後は、伝統文化や郷土の歴史を積極的に活用し、幅広い世代に向けた事業実施に努め、より多くの市民の愛着につながるよう取り組んでいく必要がある。

続いて、夢の姿7「市民が世代を越えた交流や社会活動への参加をとおして、自らの可能性を広げ、地域づくりに貢献している」については、前年度と比較して、緑陽市民館がコミュニティセンターへ移行したものの、各館にて活発に事業を実施し、地区公民館等活動推進事業における開催講座数、延べ参加者数及び地域サ

ロンカフェ推進事業における延べ参加者数が増加した。

自主サークルの参加者の高齢化等に伴う活動規模の縮小などもある中、「生涯学習を行っている人の割合」は、上昇して推移したが、今後も引き続き、サークル活動への支援や生涯学習情報を発信するとともに、地域ニーズに対応した魅力ある講座等の実施に努める必要がある。

3 文化・芸術

文化芸術の発信・創造の拠点として東海市芸術劇場の開館以来、劇場の理念である「人づくり、にぎわいづくり、生きがいづくり」のために、自主文化事業として鑑賞事業を様々なジャンルで実施し、多くの市民が質の高い文化・芸術に触れることができた。また、育成事業の一つとして、平成28年（2016年）2月に活動を開始した東海市子どものオーケストラが東海市子どものオーケストラ育成基金を活用して、第5回定期演奏会を開催し、日頃の練習の成果を発表することができた。

夢プランⅡの方向性との関連で見た場合、夢の姿6「市民が多様な文化や優れた芸術にふれて、豊かな人間性を育んでいる」については、「文化・芸術活動を行っている人の割合」は増加傾向であり、「市の文化施設で行われる文化・芸術事業への参加者数」も増加しており、優れた文化芸術にふれ、気軽に関わる機会が増えているものと考ええる。今後も継続して、文化振興事業を進めていく必要がある。

「文化創造プラン」における基本目標から実施内容を見た場合には、目標1「文化芸術への関心と感性が高まる」については、ホールでの公演だけでなく、気軽に文化芸術を発信・鑑賞する場として、劇場内のオープンスペースでミニコンサートの開催、館内壁面をギャラリーとして活用することにより、新たな文化芸術に出会う場としての役割を果たした。

続いて、目標2「だれもが身近に文化芸術に親しんでいる」については、0歳から鑑賞可能なコンサートを実施し、乳幼児や障害のある方など、通常の公演では劇場で鑑賞することが困難な市民に対し、文化芸術に触れる機会を提供することができた。また、小中学生劇場招待コンサートでは、子どもたちがプロの演奏を劇場で鑑賞することにより、大きな感動を得、文化芸術を身近に感じることもできた。さらに、出会いの教室やよしもと流楽しいコミュニケーションといったアウトリーチ事業を小学校で実施することにより、子どもを中心に文化芸術を享受できる機会を提供することができた。

続いて、目標3「多彩な文化芸術活動を行っている」については、各練習室を中心に楽器の練習やバレエ、ダンスなど多彩な文化活動の場として、利用者が利用しやすい環境を維持することで、定期的に利用する団体・個人が増え、劇場の稼

働率も、前年度と同程度の高い水準を維持している。

続いて、目標4「文化芸術を支える人とまちが育つ」については、技術力の向上と豊かな心と生きる力を育む「子どものオーケストラ」をはじめとする、これからの文化創造の担い手となる子どもたちに文化芸術活動によるひとづくりを推進した。また、市民参加による劇場の運営を進めるため、劇場の事業運営をサポートする市民スタッフを育成し、公演等の会場案内などを実施した。文化芸術に関わることでやりがいを創出し、文化芸術を支える担い手の育成が図られている。

以上のように、「文化創造プラン」に基づき各種事業を実施し、一定の成果はあげたと評価できるが、その後継の計画となる「文化創造プランⅡ」に基づき、10年後、20年後の東海市が活力あふれるまちとなるよう、より一層充実を図りながら文化芸術事業を継続していく必要がある。今後の課題としては、多くの市民が文化芸術に親しむことができるよう、参加者が体験できるようなワークショップ等の創造性豊かな事業を引き続き展開するとともに、様々な施策分野の事業と連携し、効果的に施策の推進を図る必要があると考える。

4 スポーツ

令和5年度（2023年度）におけるスポーツ分野の主な事業としては、スポーツに親しむ機会を提供するためのスポーツ推進委員会設置事業と、スポーツで活躍する人を支援するためのふるさと大使等スポーツ連携交流事業が挙げられる。

スポーツ推進委員会設置事業では、各種スポーツの市民大会運営や、各種団体との連携によるスポーツ教室、スポーツイベント等を開催し、市民のスポーツ振興及び健康増進を図った。

課題としては、ニュースポーツを幅広い世代に認知してもらうため、スポーツ推進委員とイベントの内容等について検討していく必要がある。

次にふるさと大使等スポーツ連携交流事業では、市内企業チームの認知度を高め、応援していく機運を醸成することで、市民の一体感や活力を生み出すとともに、子どもたちの夢を育むことやスポーツの楽しさを伝えるため、市内企業チーム等によるスポーツ教室の開催やふるさと大使とのスポーツ交流事業Fan!Fun!Fan!を実施した。

また、トップアスリートチームや地域の優れた人材と協力し、技術指導や試合観戦をすることで、小中学生の競技力の向上や将来トップアスリートになることを目標とする意識の向上を図った。

夢プランⅡの方向性との関連で見た場合、夢の姿4「市民がいつでもどこでもスポーツを楽しみ、健康に暮らしている」について、地域・生涯スポーツ推進活動事業においては、市民が身近な環境で継続的にスポーツに取り組めるように、学

校体育施設のスポーツ開放や地域に根ざした生涯スポーツ活動の支援を行っている。また、ニュースポーツ大会等開催事業においては、市民体育館の改修工事により開催場所を変更したため、体力テスト&ニュースポーツ体験会の参加者は減少したが、初めてとなる市民モルック大会を開催し、ニュースポーツの認知をより一層広めることができた。次に「市民一人当たりのスポーツ施設の利用回数」は、前年度から低下しており、基準値と比較しても低下している状況である。これは市民体育館の両アリーナの床面の張替及び照明機器のLED化、加木屋テニスコートの人工芝の張替等の整備に取り組んできたものの、多様化する市民ニーズへの十分な対応には至っていないものとする。また、「スポーツを実践している人の割合」については、前年度と比較して、ほぼ横ばいで推移しており、各種事業を実施しているものの、仕事や家事で忙しいことなどから、スポーツに取り組む意識の醸成に繋がっていないものとする。

引き続き、スポーツに親しむ機会を増やせるよう、各種スポーツ団体と連携し、スポーツを「する」「みる」「ささえる」視点での取り組みを進める必要がある。

5 まとめ

東海市教育委員会では、令和5年度（2023年度）教育委員会の主要事業について、「第6次東海市総合計画」に基づくまちづくりに関する評価を行う「東海市まちづくり評価委員会」及び学識経験を有する者等で構成する「東海市教育ひとづくり審議会」からの意見を踏まえ、点検・評価を実施した。

事業全体としては、第6次東海市総合計画と整合を図った、教育政策に関する基本的な計画として策定された「とうかい教育夢プランⅡ」に基づき、計画的に各事業に取り組んできた。

今後は、令和6年度（2024年度）より始まった「第7次東海市総合計画」と整合を図った「とうかい教育夢プランⅢ」に基づき各事業を実施するとともに、この点検・評価における課題・改善点等の振り返りや、学識経験者等の知見を活かしながら、今後の社会情勢及び市民ニーズへの対応等も考慮しつつ、引き続き、教育委員会や関係主体との連携・協働を進め、より総合的かつ一体的に教育行政を推進する。

分野別成果動向一覧 第2章「人づくり・心そだて」

《施策別成果動向一覧》

節	番号	施策名	成果動向	まちづくり指標の推移						成果指標の推移							
				対基準値			対前年度			対基準値				対前年度			
				改善	維持・横ばい	悪化	改善	維持・横ばい	悪化	改善	維持・横ばい	悪化	比較不可	改善	維持・横ばい	悪化	比較不可
学校教育	10	子どもたちにとって楽しい学校をつくる	順調でない	1	0	1	1	0	1	4	0	5	0	4	0	5	0
	11	学校、家庭、地域が連携して子どもの健全な成長を支える	横ばい	0	1	1	1	0	1	4	0	0	0	3	0	1	0
社会教育	12	青少年が健全で心豊かに成長できる環境をつくる	順調	2	0	0	2	0	0	4	0	0	0	4	0	0	0
	13	マナーが守られ思いやりにあふれる地域をつくる	順調でない	0	0	1	1	0	0	0	0	3	0	1	1	1	0
	14	楽しみや生きがいを感じるまちをつくる	横ばい	1	0	0	1	0	0	1	0	3	0	2	0	2	0
スポーツ	15	だれもが気軽にスポーツを楽しむ元気なまちをつくる	横ばい	1	0	1	1	0	1	3	0	0	0	2	0	1	0
文化	16	文化に親しみ心豊かなまちをつくる	順調	1	0	0	1	0	0	2	0	1	0	2	0	1	0
文化財	17	郷土の歴史や文化を大切に継承する	順調でない	1	0	1	0	0	2	1	0	1	0	1	0	1	0

《まちづくり評価委員会の評価》

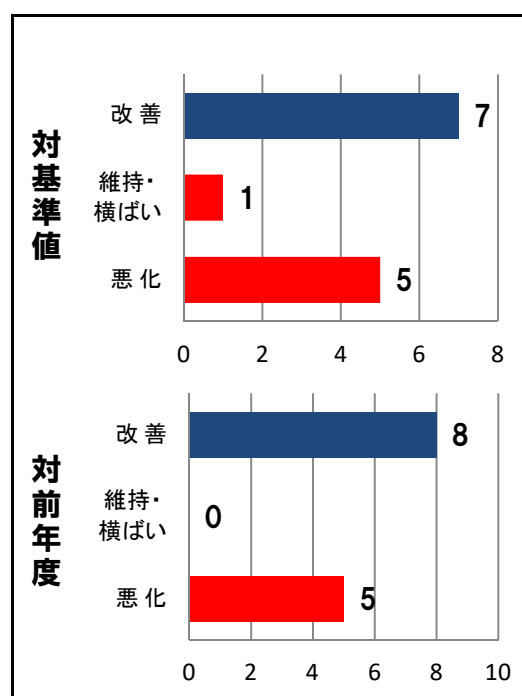
「人づくり・心そだて」分野では、まちづくり指標等の動向から判断して、施策の成果動向は、「順調」が2施策、「横ばい」が3施策、「順調でない」が3施策となり、分野全体の成果動向は、「横ばい」と評価する。

子どもたちの学びと成長環境の質を向上させるための具体的な課題解決と施策の改善を図るため、教員の指導の質向上、不登校対策など、学校現場で直面する課題への対応が必要である。

また、部活動の地域移行や地域との連携の強化も重要であり、これらを通じて子どもたちが楽しく学び、健全に成長できる環境を整える必要がある。

- [施策10] まちづくり指標、成果指標の動向から「順調でない」と評価する。
- [施策11] まちづくり指標、成果指標の動向から「横ばい」と評価する。
- [施策12] まちづくり指標、成果指標の動向から「順調」と評価する。
- [施策13] まちづくり指標、成果指標の動向から「順調でない」と評価する。
- [施策14・15] まちづくり指標、成果指標の動向から「横ばい」と評価する。
- [施策16] まちづくり指標、成果指標の動向から「順調」と評価する。
- [施策17] まちづくり指標、成果指標の動向から「順調でない」と評価する。

《まちづくり指標の状況》



〔10年後めざそう値を達成した指標〕

0018	家庭で安らいでいると感じている青少年の割合
------	-----------------------

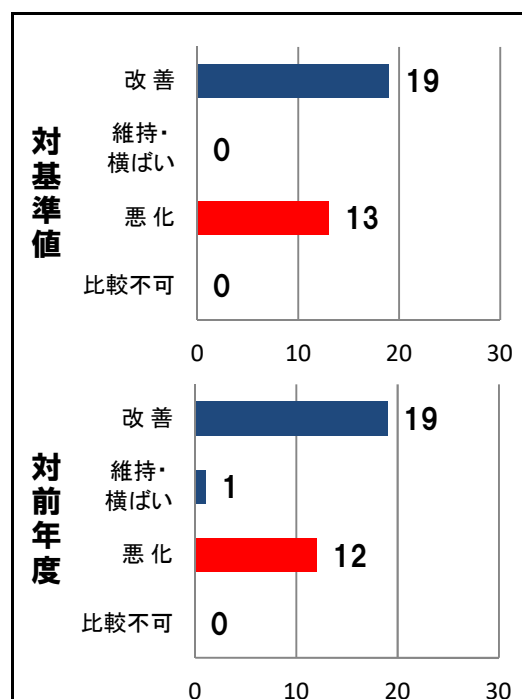
〔基準値と比較して改善した主な指標〕

0019	青少年の健全育成のための活動に関わった人の割合
0021	生涯学習を行っている人の割合
0024	文化・芸術活動を行っている人の割合
0026	15歳～30歳の若者のなかで、伝統文化を継承している団体に所属している人の割合

〔基準値と比較して悪化した主な指標〕

0014	不登校の児童生徒の割合
0016	地域の人で学校教育に関わった人の数

《成果指標の状況》



〔基準値と比較して改善した主な指標〕

1111	学校支援協議会の活動者数
1122	地域で行われる異年齢交流事業の参加者数
1521	全国大会出場件数
1621	市の文化施設で行われる文化・芸術事業への参加者数

〔基準値と比較して悪化した主な指標〕

1052	給食の食べ残しの量
1311	ボランティア活動に参加したことのある児童生徒の割合
1411	生涯学習活動で公民館、市民館などの利用者数
1422	1か月間の児童生徒の読書量

《第2章「人づくり・心そだて」指標の状況》

【まちづくり指標】「家庭で安らいでいると感じている青少年の割合」が10年後めざそう値（R5(2023)）を達成したほか、「青少年の健全育成のための活動に関わった人の割合」など、基準値と比較して7指標、分野全体で53.8%が改善した。

一方、基準値以下となった指標は「不登校の児童生徒の割合」はじめ5指標（38.5%）となった。

【成果指標】「学校支援協議会の活動者数」はじめ19指標、分野全体で59.4%が基準値より改善した。また、基準値以下となった指標は「給食の食べ残しの量」はじめ13指標（40.6%）となった。

章 02 人づくり・心そだて

理念 いきいき

節 01 学校教育

施策 10 子どもたちにとって楽しい学校をつくる

施策主管課【学校教育課】

めざすまちの姿

子どもたちにとって学校が楽しく、不登校児童生徒が少ない

施策の基本方針（総合計画から抜粋）

子ども一人ひとりが、確かな学力を身につけ、豊かな心を育む教育内容の充実に努めます。学校生活をとらして、人間として成長と発達を続けていく基盤となる力を養い、学校に楽しく通えるようにします。

施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R05年度予算	R05年度決算
01	個性と能力が伸びる授業をつくる	438,752	436,436
02	いじめ・不登校対策を充実させる	44,617	42,940
03	快適で安全な学校生活を充実させる	2,542,502	2,494,636
04	出会いと体験の場を提供する	114,567	114,175
05	食の大切さと楽しさを理解させる	854,360	848,654
施策合計		3,994,798	3,936,841

まちづくり指標の分析

No	0014	不登校の児童生徒の割合																										
方向性	➡																											
<table border="1"><thead><tr><th>年</th><th>割合 [%]</th></tr></thead><tbody><tr><td>H24</td><td>1.4</td></tr><tr><td>H25</td><td>1.5</td></tr><tr><td>H26</td><td>1.5</td></tr><tr><td>H27</td><td>1.5</td></tr><tr><td>H28</td><td>1.7</td></tr><tr><td>H29</td><td>1.8</td></tr><tr><td>H30</td><td>2.0</td></tr><tr><td>H31</td><td>2.0</td></tr><tr><td>R02</td><td>2.1</td></tr><tr><td>R03</td><td>2.5</td></tr><tr><td>R04</td><td>3.3</td></tr><tr><td>R05</td><td>4.1</td></tr></tbody></table>			年	割合 [%]	H24	1.4	H25	1.5	H26	1.5	H27	1.5	H28	1.7	H29	1.8	H30	2.0	H31	2.0	R02	2.1	R03	2.5	R04	3.3	R05	4.1
年	割合 [%]																											
H24	1.4																											
H25	1.5																											
H26	1.5																											
H27	1.5																											
H28	1.7																											
H29	1.8																											
H30	2.0																											
H31	2.0																											
R02	2.1																											
R03	2.5																											
R04	3.3																											
R05	4.1																											
対基準値:2.7ポイント増／基準値からの推移:× 10年後めざそう値達成率:-675.0% 小中学別:差異有 要因:長期に渡るコロナ禍での生活習慣の乱れの影響 や中1ギャップの増加等によるものと考え。																												

No	0015	学校が楽しいと感じている児童生徒の割合																														
方向性	➡																															
<table border="1"><thead><tr><th>年</th><th>割合 [%]</th></tr></thead><tbody><tr><td>H24</td><td>83.4</td></tr><tr><td>H25</td><td>87.1</td></tr><tr><td>H26</td><td>88.1</td></tr><tr><td>H27</td><td>85.1</td></tr><tr><td>H28</td><td>87.3</td></tr><tr><td>H29</td><td>90.8</td></tr><tr><td>H30</td><td>87.9</td></tr><tr><td>H31</td><td>85</td></tr><tr><td>R02</td><td>84.5</td></tr><tr><td>R03</td><td>87.8</td></tr><tr><td>R04</td><td>87</td></tr><tr><td>R05</td><td>85.3</td></tr><tr><td>R06</td><td>85.8</td></tr><tr><td>R07</td><td>93</td></tr></tbody></table>			年	割合 [%]	H24	83.4	H25	87.1	H26	88.1	H27	85.1	H28	87.3	H29	90.8	H30	87.9	H31	85	R02	84.5	R03	87.8	R04	87	R05	85.3	R06	85.8	R07	93
年	割合 [%]																															
H24	83.4																															
H25	87.1																															
H26	88.1																															
H27	85.1																															
H28	87.3																															
H29	90.8																															
H30	87.9																															
H31	85																															
R02	84.5																															
R03	87.8																															
R04	87																															
R05	85.3																															
R06	85.8																															
R07	93																															
対基準値:2.4ポイント増／基準値からの推移:△ 10年後めざそう値達成率:25.0% 小中学別:差異無、学校別:差異無 要因:授業内容に教職員向け研修の成果が表れている 一方で、支援が必要な子どもが増加傾向にある。																																

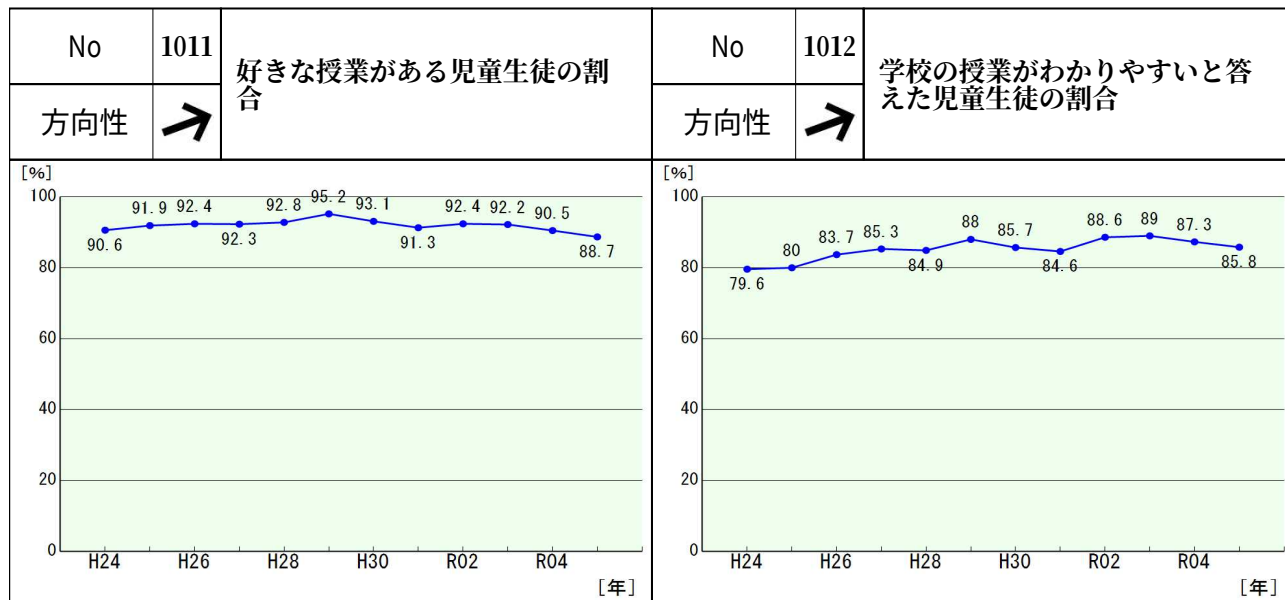
めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

「不登校の児童生徒の割合」は基準値から低下しており、「学校が楽しいと感じている児童生徒の割合」はめざそう値達成率が25.0%であることから、施策は順調に進展しなかった。課題のある児童生徒の増加や、コロナ禍での生活習慣の乱れ、中1ギャップが大きかったこと、また、教職員向けの研修の成果として子どもたちが分かりやすいと実感する授業が行われた一方で、コロナ禍により学校行事等の活動を縮小・自粛したことで挑戦する意欲や能力を開発する機会が減少し、夢や目標を持って取り組むことが困難になったことが要因と考える。7次計画では、引き続き関係機関等と連携し効果的な不登校対策の検討を進めるとともに、子どもたちが夢や目標を持ち「生きる力」を育む体験事業の実施に取り組んでいく。

施策 10 子どもたちにとって楽しい学校をつくる
単位施策 01 個性と能力が伸びる授業をつくる

単位施策主管課【学校教育課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

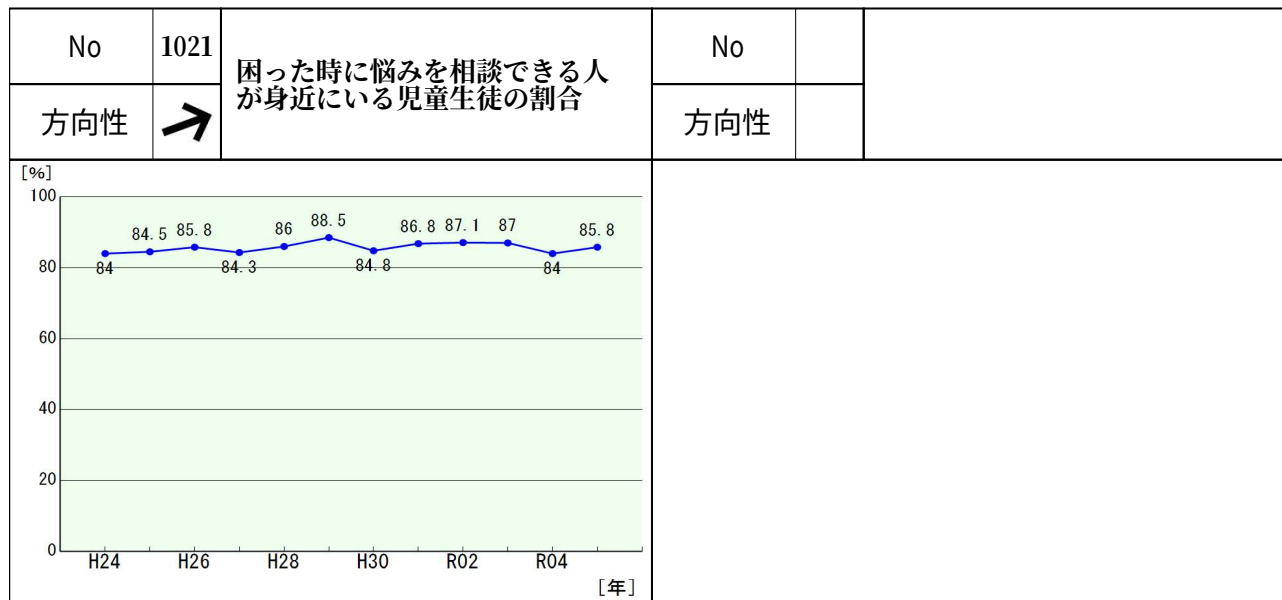
単位施策の評価

「学校の授業がわかりやすいと答えた児童生徒の割合」は基準値から改善したが、「好きな授業がある児童生徒の割合」は低下しており、単位施策は横ばいで推移した。
 経験年数に応じた幅広い研修を実施し、教職員の資質向上が図られ、授業改善に向けた取り組みが実施されたことにより、小学校では「分かりやすい」と実感する授業につながったが、学習内容が難しくなる中学校において、好きな授業があるとした生徒の割合がやや減少した。
 7次計画においても、教職員のニーズや課題に応じた研修を企画し、児童生徒が「好き、分かりやすい」と実感できる授業作りができるよう、専門性の高い講師の発掘に努め、教職員全体の指導力向上を図っていく。

施策 10 子どもたちにとって楽しい学校をつくる
単位施策 02 いじめ・不登校対策を充実させる

単位施策主管課【学校教育課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

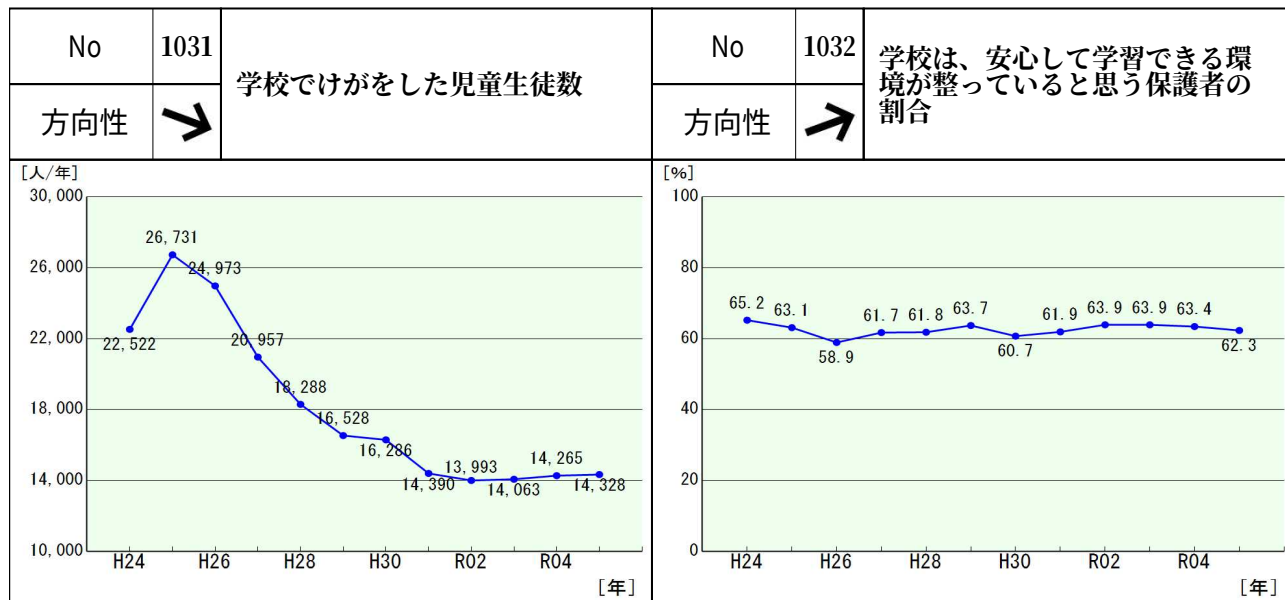
単位施策の評価

成果指標は基準値を上回った年度もあったものの、単位施策は概ね横ばいで推移した。
 心の相談員やスクールカウンセラーの配置、不登校傾向にある子どもたちの自立支援としての適応指導教室に加え、令和2年度より配置したスクールソーシャルワーカーなど、段階に応じて多方面からいじめ・不登校対策に取り組み、継続させてきたことによる成果がある一方で、課題のある児童生徒は増加しており、家庭環境や養育の状況が複雑化するなど、必要な支援が多様化していることから、対策のさらなる充実が必要となっていると考える。
 7次計画では、引き続き関係機関と連携し、不登校の未然防止・早期対応・自立支援に努めるとともに、各支援対策が連携し、より効果を発揮できるように取り組んでいく。

施策 10 子どもたちにとって楽しい学校をつくる
単位施策 03 快適で安全な学校生活を充実させる

単位施策主管課【学校教育課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

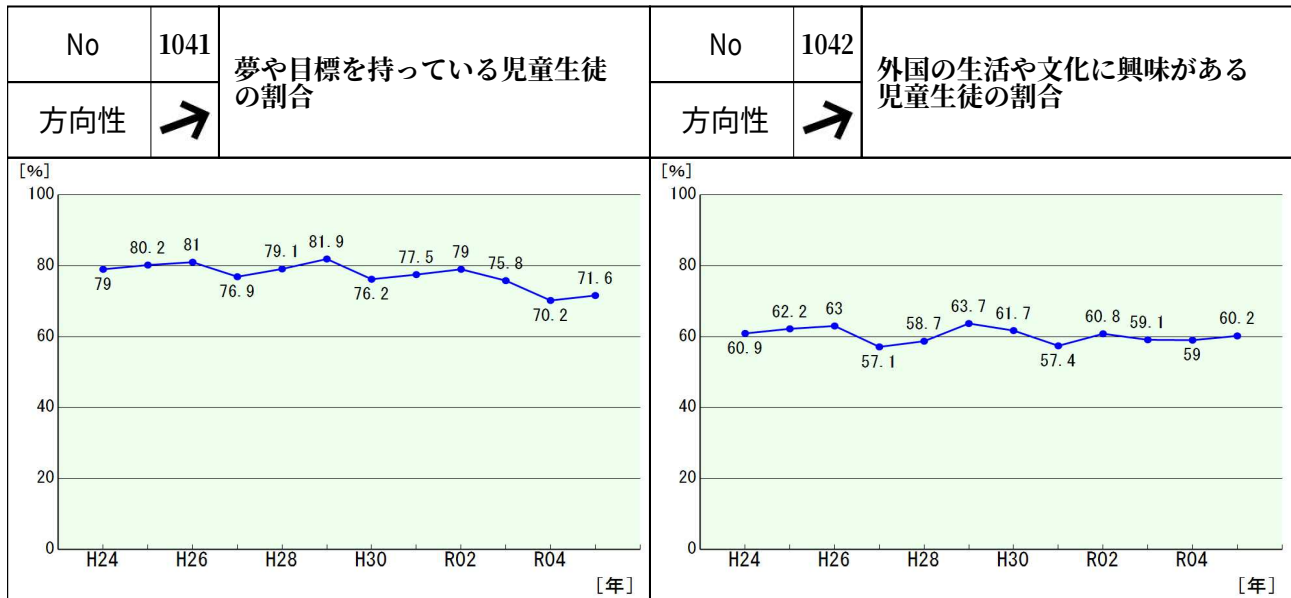
単位施策の評価

成果指標2指標のうち、1指標は基準値から順調に向上しているが、1指標は基準値から低下しており、単位施策は横ばいで推移した。
「学校でけがをした児童生徒数」は基準値から減少し、サポーター等の配置による支援や、学校施設長寿命化計画を策定し、計画的な施設等改修を実施してきた効果と考える。一方、「学校は、安心して学習できる環境が整っていると思う保護者の割合」は基準値から低下し、老朽化に伴う対策の必要な施設等が依然として多くあることが要因と考える。
7次計画では、学校施設長寿命化計画に基づき、老朽化している施設等の計画的な改修・建替えや、設備の維持管理及び更新に取り組んでいく。

施策 10 子どもたちにとって楽しい学校をつくる
単位施策 04 出会いと体験の場を提供する

単位施策主管課【学校教育課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

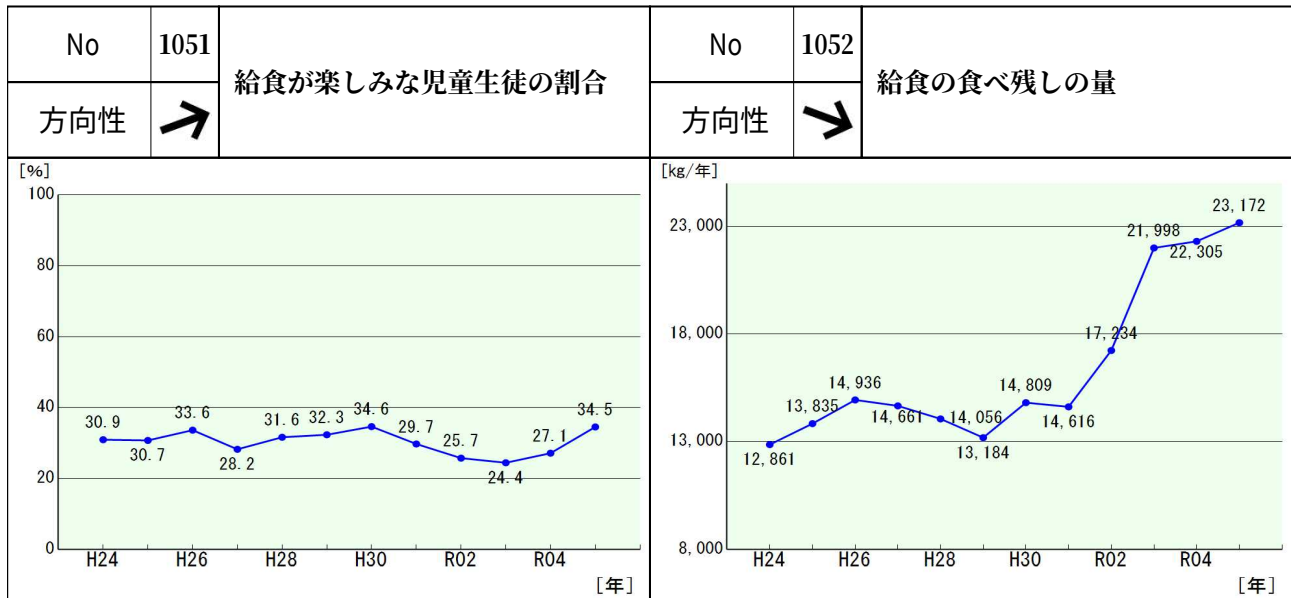
単位施策の評価

成果指標2指標とも基準値から低下しており、単位施策は順調に進展しなかった。
「夢や目標を持っている児童生徒の割合」については、コロナ禍により学校行事等の活動を縮小・自粛したことで、挑戦する意欲や能力を開発する機会が減少したこと、デジタル化の進展による体験機会の減少や関心のある情報だけに触れ、幅広い情報に触れる機会が減少したことによるものと考えられる。
7次計画においては、子どもたちが異なる文化や歴史に触れることで視野を広げ、夢や目標を描くことができるように、姉妹都市交流や体験事業の充実に取り組んでいく。

施策 10 子どもたちにとって楽しい学校をつくる
単位施策 05 食の大切さと楽しさを理解させる

単位施策主管課【学校教育課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

単位施策の評価

「給食が楽しみな児童生徒の割合」は基準値より向上しているものの、「給食の食べ残しの量」は、基準値より低下しており、単位施策は順調に進展しなかった。

「給食が楽しみな児童生徒の割合」は、コロナ禍による黙食から緩和され会話を楽しむことが出来るようになり改善し、「給食の食べ残しの量」は、インフルエンザ等の感染症による急な欠食等及び食事時間の減少、食べ残し指導の変化により残食の量が増加したと考える。

7次計画では、献立の工夫等、児童生徒にとって魅力のある献立を充実させ、食べることで健康な体になるなどの食育指導を継続的に行い、児童生徒の給食への興味、食べる意欲を高める取り組みを実施していく。

章 02 人づくり・心そだて
節 01 学校教育

理念 ふれあい

施策 11 学校、家庭、地域が連携して子どもの健全な成長を支える

施策主管課【学校教育課】

めざすまちの姿

子どもの健全な成長に対して、学校、家庭、地域などが連携している

施策の基本方針（総合計画から抜粋）

学校、家庭、地域が連携して、地域全体で子どもの教育を担っていきます。
地域との関わりをとおして、遊びやさまざまな人とのふれあいから、思いやりや責任感を身につけ、社会の担い手となる教育を進めます。

施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R05年度予算	R05年度決算
01	地域に開かれた学校をつくる	7,716	6,848
02	笑顔と愛にあふれる子どもを地域の連携で育てる	24,997	22,929
施策合計		32,713	29,777

まちづくり指標の分析

No	0016	地域の人で学校教育に関わった人の数	No	0017	子どもの教育について学校、家庭、地域の連携が十分にできていると思う人の割合
方向性	➡		方向性	➡	
[人/年]			[%]		
対基準値:339人減／基準値からの推移:× 10年後めざそう値達成率:-27.7% 要因:新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、地域住民の活動を縮小・中止したことで減少したが、順調に回復してきているものと考える。			対基準値:横ばい／基準値からの推移:△ 10年後めざそう値達成率:0.0% 年齢別:差異有、職業別:差異有、学区別:差異有 要因:学校活動への参画が進んだものの、理解を深める機会が少なかったものと考える。		

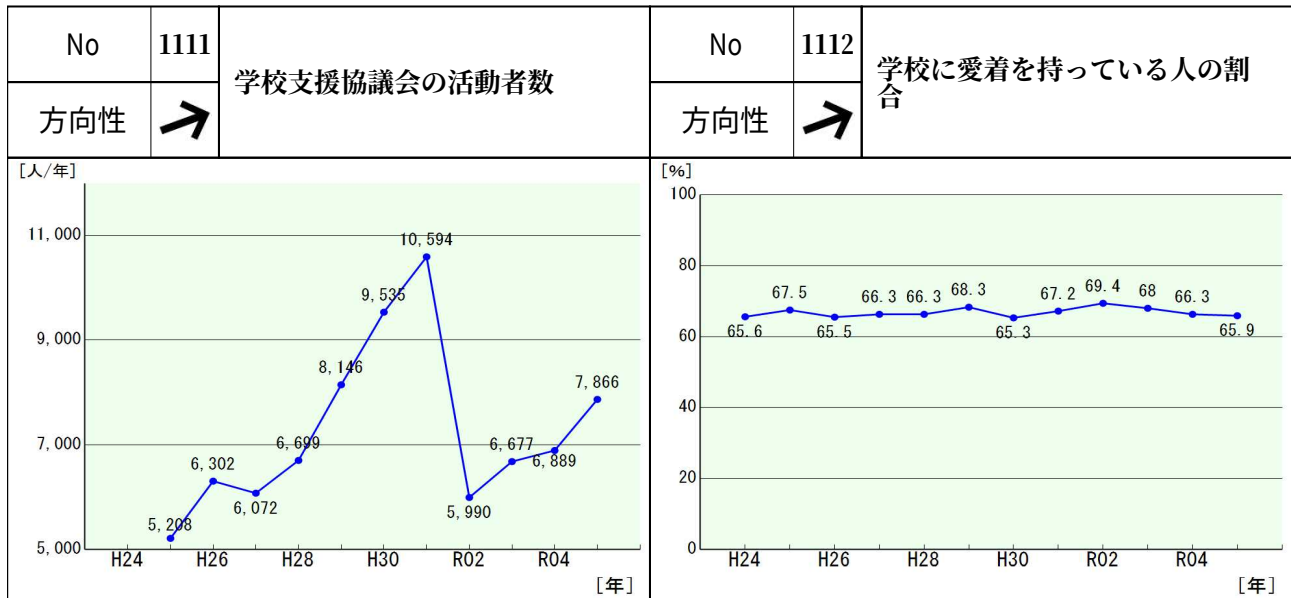
めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

「学校教育に関わった人の数」は基準値から低下、「連携が十分にできていると思う人の割合」は基準値と横ばいであるが、単位施策は順調に進展しており、施策は横ばいで推移した。
「学校教育に関わった人の数」は、コロナ禍において関連事業を縮小・中止していたがその後は順調に回復しており、「連携が十分にできていると思う人の割合」は、学校支援協議会の活動や子ども教室等の実施により学校と家庭や地域との連携に対する理解は進んだものの、学校活動への理解を深める機会が少なかったものと考える。
7次計画では、学校運営協議会制度や、部活動の地域移行の推進等を通して、将来にわたって地域で子どもの成長を見守り、支える意識の向上に向けて取り組んでいく。

施策 11 学校、家庭、地域が連携して子どもの健全な成長を支える
単位施策 01 地域に開かれた学校をつくる

単位施策主管課【学校教育課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

単位施策の評価

成果指標2指標のうち1指標は基準値から改善し、1指標は横ばいであることから、単位施策は概ね順調に進展した。

「学校支援協議会の活動者数」については、コロナ禍で下がったものの順調に回復しており、地域や保護者の学校運営への参画が浸透してきたと考える。「愛着を持っている人の割合」については、学校支援協議会のボランティア活動などを通じて、地域や保護者と連携した活動を進めてきた成果があるものの、社会情勢の変化により数値が伸び悩んだものとする。

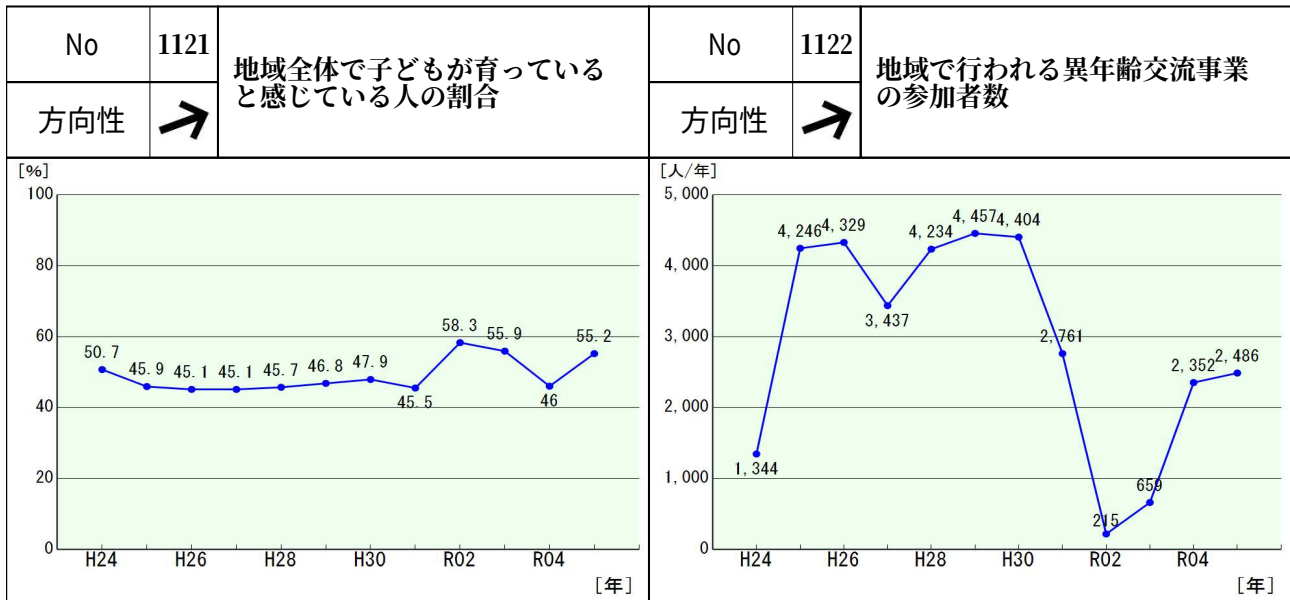
7次計画では、学校運営協議会制度を通して、地域や保護者の学校運営への支援及び協力を促進することにより、地域とともにある学校づくりに取り組んでいく。

施策 11 学校、家庭、地域が連携して子どもの健全な成長を支える

単位施策 02 笑顔と愛にあふれる子どもを地域の連携で育てる

単位施策主管課【社会教育課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

単位施策の評価

成果指標2指標とも基準値から順調に向上しており、単位施策は順調に進展した。

「地域全体で子どもが育っていると感じている人の割合」は、平成30年度から開始した学習支援教室の実施や、令和4年度から子ども教室を拡充して実施したことにより向上したと考える。「地域で行われる異年齢交流事業の参加者数」は、ふれあい交流推進事業などの継続的な実施によるものと考えられる。

7次計画では、異年齢交流を推進する事業の取り組みや、こども教室等地域全体で子どもの健全な成長を支えていける事業を引き続き実施していく。

章 02 人づくり・心そだて

理念 いきいき

節 02 社会教育

施策 12 青少年が健全で心豊かに成長できる環境をつくる

施策主管課【社会教育課】

めざすまちの姿

青少年が地域や社会のなかで健全に成長している

施策の基本方針（総合計画から抜粋）

さまざまな人との交流をとおして、社会性を身につけ、個性や能力を発揮して、主体的に判断・行動できる青少年の育成に努めます。

施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R05年度予算	R05年度決算
01	青少年が活躍する場をつくる	5,112	4,995
02	青少年の非行を防止する	5,998	5,598
施策合計		11,110	10,593

まちづくり指標の分析

No	0018	No	0019
方向性	→	方向性	→
家庭で安らいでいると感じている青少年の割合 対基準値:6.0ポイント増／基準値からの推移:○ 10年後めざそう値達成率:109.1% 年齢別:差異無、職業別:差異有 要因:家庭等における青少年の見守りによる効果と想定。家庭と関わりが深い学生が高い。		青少年の健全育成のための活動に関わった人の割合 対基準値:2.0ポイント増／基準値からの推移:○ 10年後めざそう値達成率:58.8% 年齢別:差異有、職業別:差異有、地区別:差異有 要因:街頭パトロール活動の推進により微増していると想定。地域との関わりが強い自営業が高い。	

めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

「家庭で安らいでいると感じている青少年の割合」はめざそう値を達成し、「青少年の健全育成のための活動に関わった人の割合」は達成率が58.8%であったことから、施策は順調に進展した。

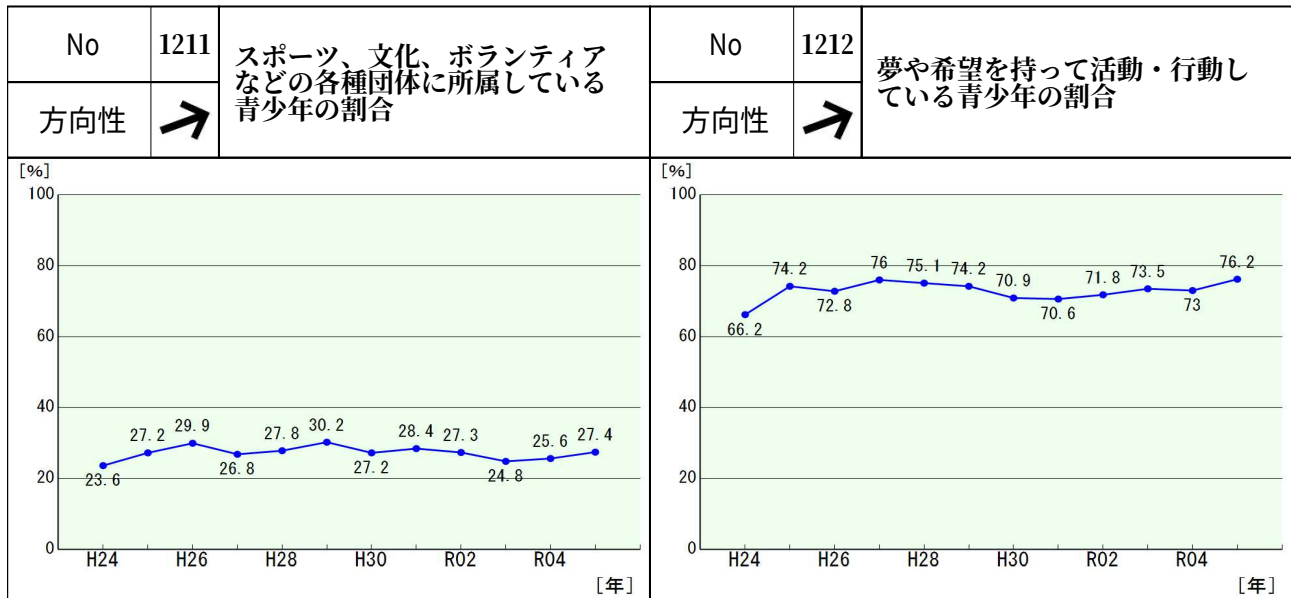
コロナ禍においても、20歳の集いを2部制として開催するなど、社会環境の変化に的確に対応したことや、街頭パトロール活動、有害環境浄化活動、非行防止啓発チラシの配布やスマホ等のトラブル防止に関する市内小中学校への出前教室など、地域や学校等が一体となり青少年の見守りを継続的に行ってきたこと等による効果と考える。

7次計画においても、地域等と協力し、青少年の健全育成の支援に取り組んでいく。

施策 12 青少年が健全で心豊かに成長できる環境をつくる
単位施策 01 青少年が活躍する場をつくる

単位施策主管課【社会教育課】

成果指標の推移



No		No	
方向性		方向性	

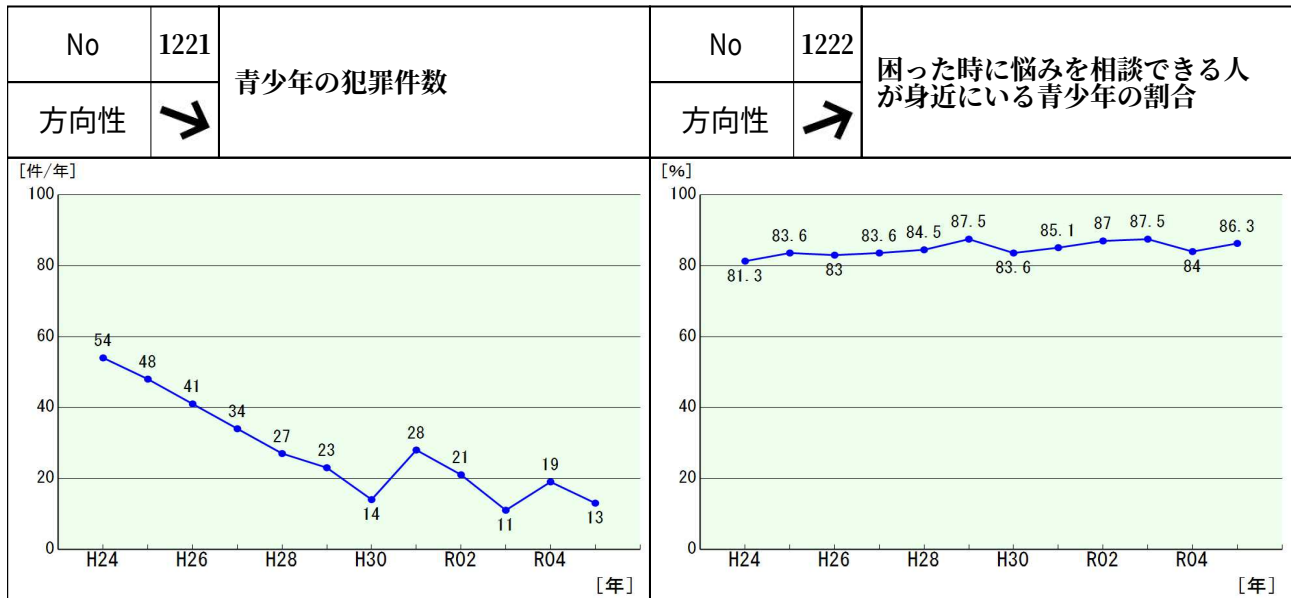
単位施策の評価

成果指標2指標とも基準値から順調に向上しており、単位施策は順調に進展した。
「スポーツなどの各種団体に所属している青少年の割合」は、市内で展開しているスポーツ等各種団体の活動が魅力的であること、周知等の効果が出ているものと考え。「夢や希望を持って活動・行動している青少年の割合」は、実施方法の見直しはあるものの、20歳の集いなど、青少年が夢や希望が持てるように支援する事業を継続的に実施してきた成果であると考え。
。7次計画でも、社会環境の変化に適切に対応し、20歳の集い開催事業や青少年育成に関する事業等の取り組みを引き続き実施していく。

施策 12 青少年が健全で心豊かに成長できる環境をつくる
単位施策 02 青少年の非行を防止する

単位施策主管課【社会教育課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

単位施策の評価

成果指標は基準値から順調に推移しており、単位施策は順調に進展した。
「青少年の犯罪件数」は基準値より41件（76%）減少しており、青少年育成センターにおける非行防止啓発や、関係機関への周知や連携、パトロールの強化等の成果と考える。また、「悩みを相談できる人が身近にいる青少年の割合」は基準値より5ポイント向上しており、地域や学校等が一体となり青少年を見守るとともに、居場所づくりや大人との交流の場となる環境を整えてきたことが指標の改善につながったと考える。
青少年の非行を未然に防ぎ、また、青少年が地域社会で健やかに育つため、7次計画では関係機関との連携を強固にし、青少年の健全育成に取り組んでいく。

章 02 人づくり・心そだて
節 02 社会教育

理念 ふれあい

施策 13 マナーが守られ思いやりにあふれる地域をつくる

施策主管課【社会教育課】

めざすまちの姿

正しいマナーを子どもが身につけており、その習慣が次世代にも継承されている

施策の基本方針（総合計画から抜粋）

さまざまな体験や人とのふれあい、ボランティア活動などをおして、社会性を身につけ、人を思いやる心を育てます。

施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R05年度予算	R05年度決算
01	子どもが社会性を身につけ思いやる心を育てる	0	0
02	思いやり感謝し親切にできる地域をつくる	805	805
施策合計		805	805

まちづくり指標の分析

No	0020	この1年で人に親切にしたことのある人の割合	No																												
方向性	➔		方向性																												
[%] <table><thead><tr><th>年</th><th>割合 [%]</th></tr></thead><tbody><tr><td>H24</td><td>78.3</td></tr><tr><td>H25</td><td>74.3</td></tr><tr><td>H26</td><td>71.6</td></tr><tr><td>H27</td><td>73.6</td></tr><tr><td>H28</td><td>74.0</td></tr><tr><td>H29</td><td>76.0</td></tr><tr><td>H30</td><td>80.0</td></tr><tr><td>R01</td><td>75.0</td></tr><tr><td>R02</td><td>73.0</td></tr><tr><td>R03</td><td>76.6</td></tr><tr><td>R04</td><td>75.3</td></tr><tr><td>R05</td><td>85.0</td></tr></tbody></table> [年]			年	割合 [%]	H24	78.3	H25	74.3	H26	71.6	H27	73.6	H28	74.0	H29	76.0	H30	80.0	R01	75.0	R02	73.0	R03	76.6	R04	75.3	R05	85.0			
年	割合 [%]																														
H24	78.3																														
H25	74.3																														
H26	71.6																														
H27	73.6																														
H28	74.0																														
H29	76.0																														
H30	80.0																														
R01	75.0																														
R02	73.0																														
R03	76.6																														
R04	75.3																														
R05	85.0																														
対基準値:1.4ポイント減／基準値からの推移:× 10年後めざそう値達成率:-20.9% 年齢別:差異有、職業別:差異有、地区別:差異有 要因:地域における人間関係の希薄化が要因と想定。 社会との関わりが多い世代、職業が高い。																															

めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

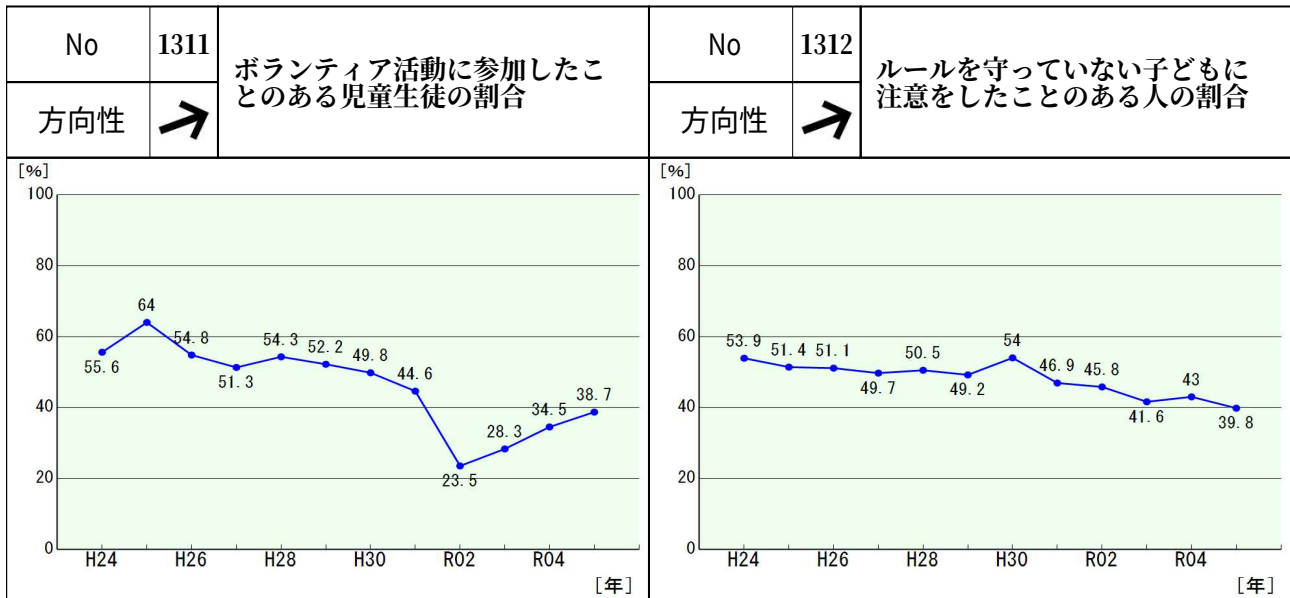
まちづくり指標は、基準値から低下しており、施策は順調に進展しなかった。
 年齢別にみると、10代が最も高く、年齢が上がるにつれて低下する傾向であることから、学校や家庭等で親切にすることを教えられたことが、年数を重ねることで希薄化していることが要因の一つと考える。
 7次計画では、地域社会との関わりの中で、正しいマナーや習慣を多世代で学べるよう、啓発等に取り組んでいく。

施策 13 マナーが守られ思いやりにあふれる地域をつくる

単位施策 01 子どもが社会性を身につけ思いやる心を育てる

単位施策主管課【社会教育課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

単位施策の評価

成果指標2指標とも基準値から悪化しており、単位施策は順調に進展しなかった。

「ボランティア活動に参加したことのある児童生徒の割合」は、学校等における活動機会が減少してきたことが背景として低下したものとする。「ルールを守っていない子どもに注意をしたことのある人の割合」は、世帯の就労環境の変化など、地域の子どもの関わる時間が短くなったことなどにより低下したものとする。

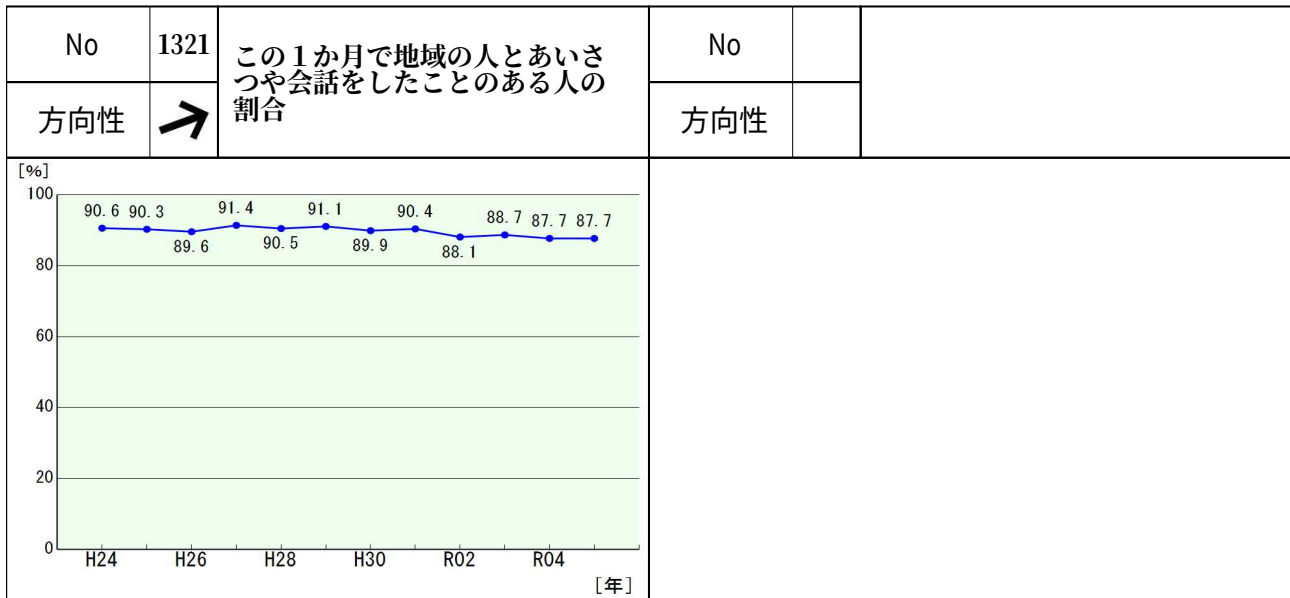
7次計画では、家庭、地域及び学校の連携強化を図り、ボランティア活動への参加機会を提供するとともに、地域全体で子どもの社会性や思いやる気持ちを育てる意識の向上を図っていく必要がある。

施策 13 マナーが守られ思いやりにあふれる地域をつくる

単位施策 02 思いやりに感謝し親切にできる地域をつくる

単位施策主管課【社会教育課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

単位施策の評価

成果指標1指標は、基準値からの変化が少なく、単位施策は横ばいで推移した。

「この1か月で地域の人とあいさつや会話をしたことがある人の割合」は、6次総合計画期間において若年層では基準値より低下しているものの、他の世代は高い水準で推移しており、学校及び地域の連携によるあいさつ運動が、身近な取り組みとして浸透し、一定の効果を出していると考えられる。

7次計画では、子どものうちからあいさつや会話などをする習慣や、社会性や人を思いやる心の大切さを、家庭教育推進事業などをおして啓発するとともに、定着を図っていく。

章 02 人づくり・心そだて

理念 いきいき

節 02 社会教育

施策 14 楽しみや生きがいを感じるまちをつくる

施策主管課【社会教育課】

めざすまちの姿

楽しみや生きがいを感じて学習や余暇活動に取り組んでいる

施策の基本方針（総合計画から抜粋）

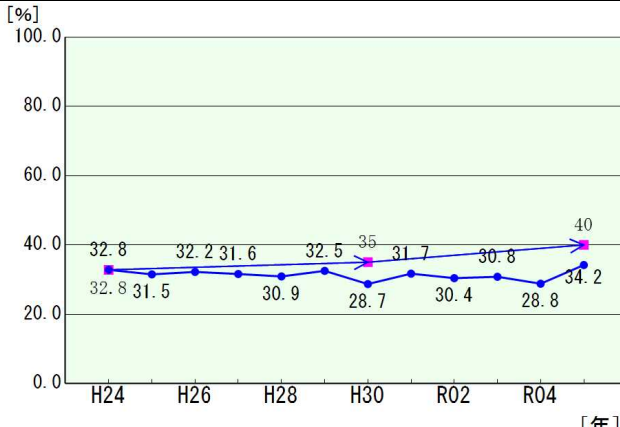
市民の自主的・主体的な学習活動によって、生きがいを持つことができるよう、さまざまな学習の機会や情報を提供します。

施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R05年度予算	R05年度決算
01	学び教え合う学習活動を充実させる	1,474,921	560,507
02	読書に親しみ楽しむ機会を増やす	212,060	210,886
施策合計		1,686,981	771,393

まちづくり指標の分析

No	0021	生涯学習を行っている人の割合	No		
方向性	➔		方向性		
[%]  [年]					
対基準値:1.4ポイント増／基準値からの推移:○ 10年後めざそう値達成率:19.4% 年齢別:差異有、職業別:差異有、地区別:差異有 要因:学習時間の制約が要因と想定。学生など比較的時間に余裕のある世代や職業は高い。					

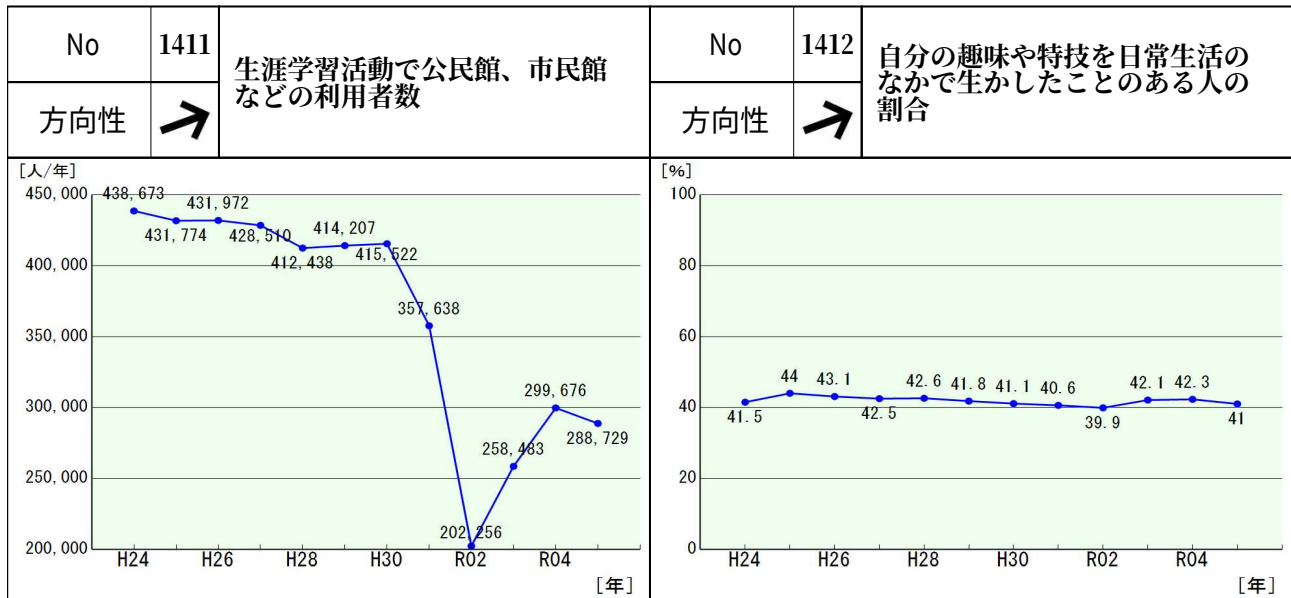
めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

まちづくり指標の達成率は19.4%だったことから、施策は横ばいで推移した。
地区公民館・市民館での講座や地域サロンカフェの開催、中央図書館での読み聞かせボランティア講座やお話友の会の開催など、6次計画期間をとおして各種事業を展開してきたが、市民の生涯学習活動に関する意欲の向上に十分につながらなかったと考える。
7次計画では、市民の学習ニーズを的確にとらえ、新たな学びの機会と場の提供、利用しやすい図書館サービスや読書環境の充実を目指していく。

施策 14 楽しみや生きがいを感じるまちをつくる
単位施策 01 学び教え合う学習活動を充実させる

単位施策主管課【社会教育課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

単位施策の評価

「生涯学習活動で公民館、市民館などの利用者数」は基準値から低下、「自分の趣味や特技を日常生活のなかで生かしたことがある人の割合」は横ばい傾向であることから、単位施策は横ばいで推移した。

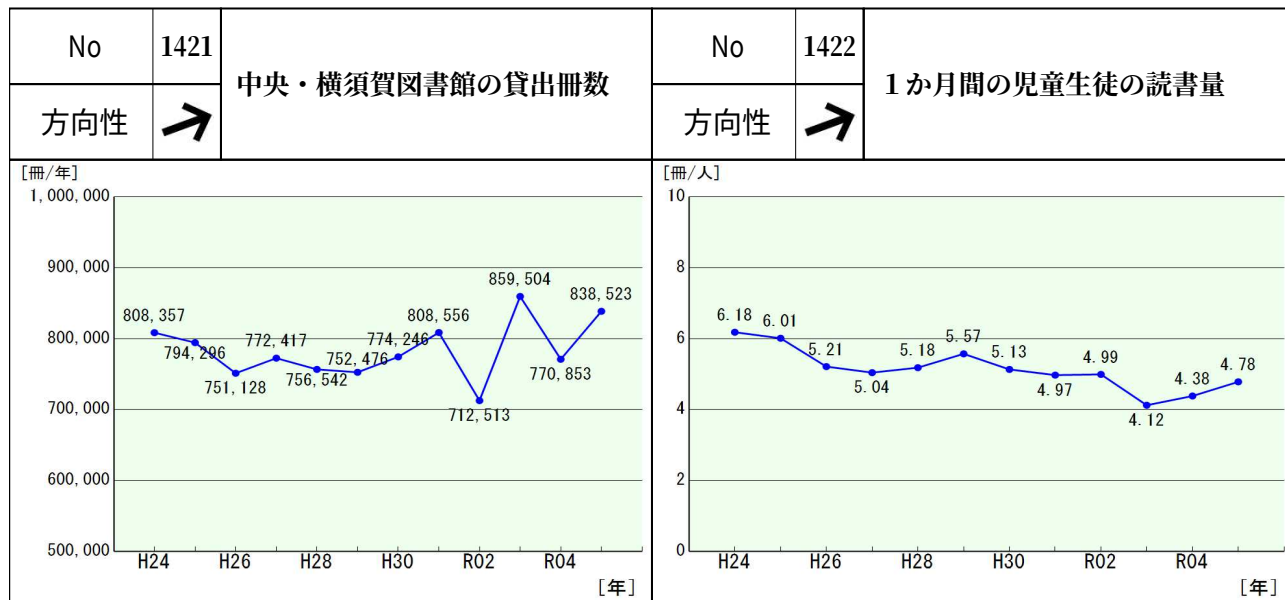
「生涯学習活動で公民館、市民館などの利用者数」は、文化センターの廃止により、低下したと考える。「自分の趣味や特技を日常生活のなかで生かしたことがある人の割合」は、自主サークルなどが利用者の高齢化等による活動規模の縮小が低下の一因であると考え。

7次計画では、地域住民の学習ニーズの把握を適切に行い、必要な学習機会の場の提供と、自主的な学習活動を支えるための環境整備等に取り組んでいく。

施策 14 楽しみや生きがいを感じるまちをつくる
 単位施策 02 読書に親しみ楽しむ機会を増やす

単位施策主管課【中央図書館】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

単位施策の評価

成果指標のうち「貸出冊数」は基準値からやや改善しているが、「児童生徒の読書量」は基準値から低下しており、単位施策は順調に進展しなかった。
 平成31年1月の横須賀図書館開館、令和元年度からの貸出上限冊数引き上げ（10冊→20冊）により貸出冊数が増加した年度があったものの、新型コロナウイルス感染症の影響や老朽化対策として実施の改修工事に伴う臨時休館による開館日数の減少や、スマートフォンの普及・インターネット利用の増加による読書時間の減少や情報の取得方法の変化が原因と考える。
 7次計画においては、よりだれもが利用しやすい図書サービスの提供に努め、読書を楽しみながら学ぶ環境の充実を図っていく。

章 02 人づくり・心そだて
節 03 スポーツ

理念 いきいき

施策 15 だれもが気軽にスポーツを楽しむ元気なまちをつくる

施策主管課【スポーツ課】

めざすまちの姿

気軽にスポーツを楽しんでいる

施策の基本方針（総合計画から抜粋）

市民にスポーツの楽しさや大切さを広め、だれもがスポーツに親しめる環境を整備します。
また、市民がいきいきとした生活を送ることができるよう、各種スポーツ活動をとおして、健康づくりを進めます。

施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R05年度予算	R05年度決算
01	スポーツに親しむ機会を提供する	617,077	603,138
02	スポーツで活躍する人を支援する	6,579	6,429
施策合計		623,656	609,567

まちづくり指標の分析

No	0022	市民一人当たりのスポーツ施設の利用回数	No	0023	スポーツを実践している人の割合
方向性	➡		方向性	➡	
[回/人・年]			[%]		
対基準値:0.2回減/基準値からの推移:× 10年後めざそう値達成率:-12.5% 要因:市民体育館アリーナの床面の張替及び照明機器のLED化の工事のため長期間利用ができなかったことによるもの。			対基準値:1.1ポイント増/基準値からの推移:△ 10年後めざそう値達成率:15.9% 年齢別:差異有、職業別:差異無、地区別:差異無 要因:新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行によるスポーツイベントや教室の再開によると想定。		

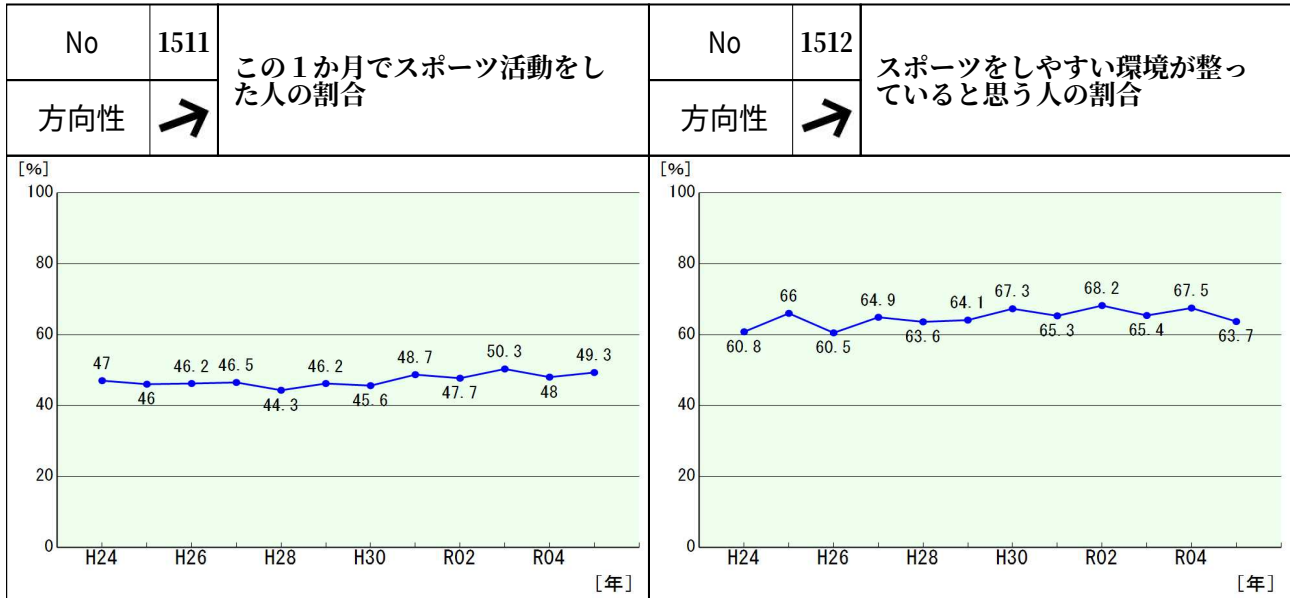
めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

「施設の利用回数」は基準値から低下、「実践している人の割合」はめざそう値達成率が15.9%であるものの、単位施策は順調に進展していることから、施策は横ばいで推移した。
市民体育館及び運動公園の整備に取り組んできたものの、多様化する市民ニーズへの十分な対応には至っておらず、「施設の利用回数」は基準値から改善しなかった。また、「実践している人の割合」も、各種事業を実施しているものの、仕事や家事で忙しいことなどから、スポーツに取り組む意識の醸成につなげていないものと考ええる。
7次計画では、スポーツに関わる人を増やし、健康で活力のあるまちづくりに貢献できるよう、各種スポーツ事業の充実と、安全に快適に利用できるスポーツ環境を整備していく。

施策 15 だれもが気軽にスポーツを楽しむ元気なまちをつくる
単位施策 01 スポーツに親しむ機会を提供する

単位施策主管課【スポーツ課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

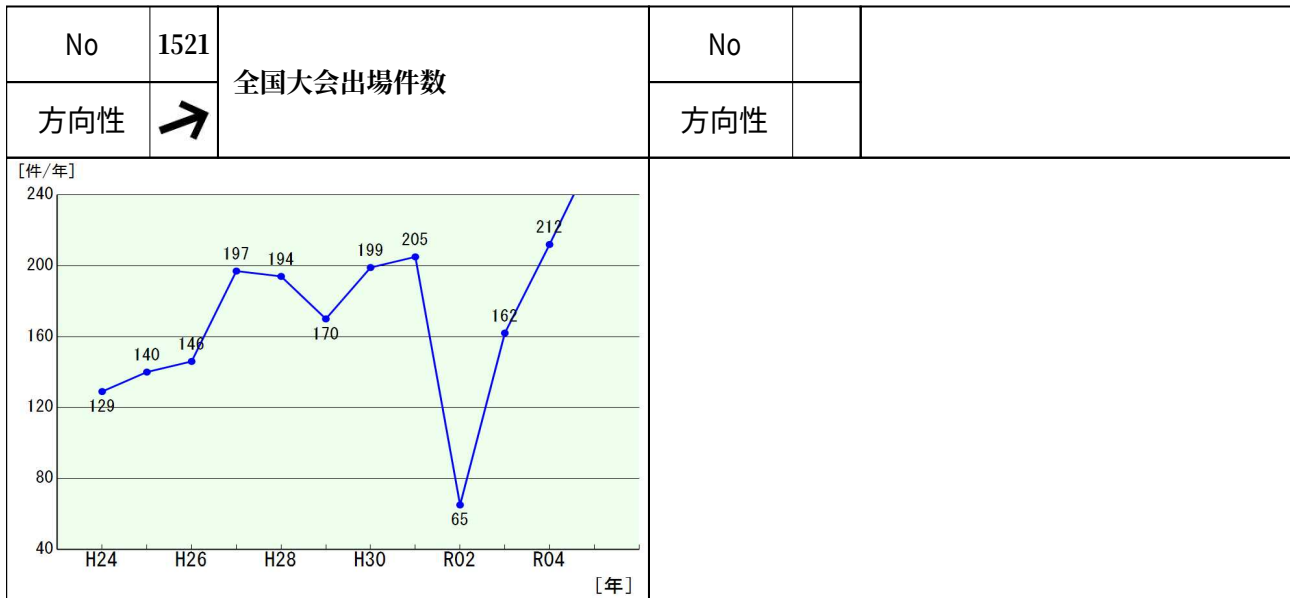
単位施策の評価

成果指標は、2指標とも変化は少ないものの基準値から向上しており、単位施策は概ね順調に進展した。
「この1か月でスポーツ活動をした人の割合」については、東海ハーフマラソンの開催や、スポーツクラブ東海と連携して市民ニーズに応じた教室や事業等を展開したことが影響していると考え。「環境が整っていると思う人の割合」について、各スポーツ施設の整備のみならず、身近な公園での事業展開や学校のスポーツ開放等の実施が影響していると考え。
7次計画では、本市の現状や課題を踏まえ、市民一人ひとりがスポーツに興味・関心を持てるように働きかけ、多面的に参加しやすい環境をつくっていく。

施策 15 だれもが気軽にスポーツを楽しむ元気なまちをつくる
単位施策 02 スポーツで活躍する人を支援する

単位施策主管課【スポーツ課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

単位施策の評価

成果指標は基準値から向上しており、単位施策は順調に進展した。
 成果指標の改善は、全国大会出場者に対して行う激励制度の定着やオリンピック出場選手の応援事業の実施が影響していると考ええる。
 7次計画では、引き続きふるさと大使である地元企業スポーツチームなどと連携した試合観戦やスポーツ教室を開催するとともに、全国大会や世界大会等に出場する個人や団体に対し、激励会を開催するなど、アスリート活動を支援していく。

章 02 人づくり・心そだて

節 04 文化

施策 16 文化に親しみ心豊かなまちをつくる

理念 いきいき

施策主管課【文化芸術課】

めざすまちの姿

文化に親しみ心豊かな生活を送っている

施策の基本方針（総合計画から抜粋）

市民が積極的に参加できる文化事業を開催し、個性豊かな文化を振興します。
また、芸術劇場を拠点として公民館・市民館などさまざまな場で、文化による交流を促し、まちのにぎわいづくりに貢献します。

施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R05年度予算	R05年度決算
01	市民の文化芸術活動を支援する	9,173	9,173
02	感動が生まれる文化芸術を提供する	460,867	445,790
施策合計		470,040	454,963

まちづくり指標の分析

No	0024	文化・芸術活動を行っている人の割合	No																																			
方向性	➔		方向性																																			
[%] <table border="1"><thead><tr><th>年</th><th>割合 [%]</th></tr></thead><tbody><tr><td>H24</td><td>19.6</td></tr><tr><td>H25</td><td>18.7</td></tr><tr><td>H26</td><td>19.3</td></tr><tr><td>H27</td><td>19.2</td></tr><tr><td>H28</td><td>19.4</td></tr><tr><td>H29</td><td>22.3</td></tr><tr><td>H30</td><td>17</td></tr><tr><td>H31</td><td>22</td></tr><tr><td>H32</td><td>20.3</td></tr><tr><td>H33</td><td>19.6</td></tr><tr><td>H34</td><td>19.4</td></tr><tr><td>R01</td><td>17.5</td></tr><tr><td>R02</td><td>20.8</td></tr><tr><td>R03</td><td>25</td></tr></tbody></table> [年] <tr><td colspan="3">対基準値:1.2ポイント増／基準値からの推移:○ 10年後のめざそう値達成率:22.2% 年齢別:差異有、職業別:差異有、地区別:差異有 要因:学生や主婦等、比較的時間的に余裕があり、文化芸術活動に触れる機会が多い人が高い。</td><td colspan="3"></td></tr>			年	割合 [%]	H24	19.6	H25	18.7	H26	19.3	H27	19.2	H28	19.4	H29	22.3	H30	17	H31	22	H32	20.3	H33	19.6	H34	19.4	R01	17.5	R02	20.8	R03	25	対基準値:1.2ポイント増／基準値からの推移:○ 10年後のめざそう値達成率:22.2% 年齢別:差異有、職業別:差異有、地区別:差異有 要因:学生や主婦等、比較的時間的に余裕があり、文化芸術活動に触れる機会が多い人が高い。					
年	割合 [%]																																					
H24	19.6																																					
H25	18.7																																					
H26	19.3																																					
H27	19.2																																					
H28	19.4																																					
H29	22.3																																					
H30	17																																					
H31	22																																					
H32	20.3																																					
H33	19.6																																					
H34	19.4																																					
R01	17.5																																					
R02	20.8																																					
R03	25																																					
対基準値:1.2ポイント増／基準値からの推移:○ 10年後のめざそう値達成率:22.2% 年齢別:差異有、職業別:差異有、地区別:差異有 要因:学生や主婦等、比較的時間的に余裕があり、文化芸術活動に触れる機会が多い人が高い。																																						

めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

「文化・芸術活動を行っている人の割合」のめざそう値達成率は22.2%であるが、単位施策の成果動向が横ばいや順調であることから、施策は概ね順調に進展した。

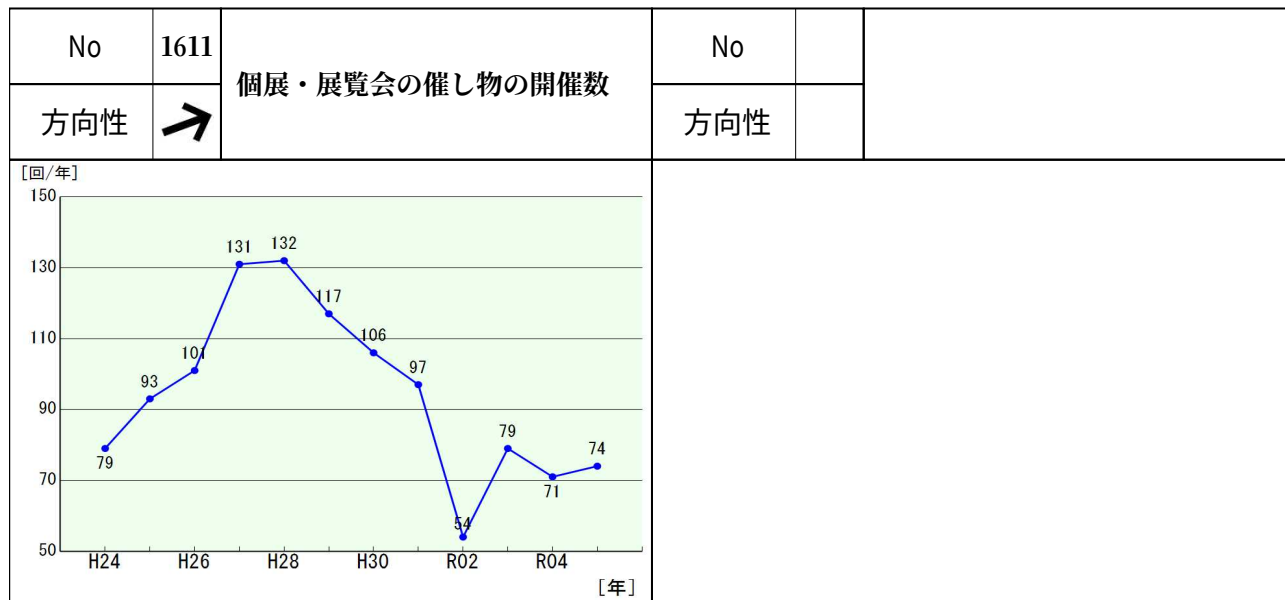
平成27年度の芸術劇場の開館により、市民が参加可能なワークショップ等の活動や、上質な文化芸術鑑賞の機会の提供を継続的に実施してきた。これにより、市民の文化芸術への関心が高まり、「事業への参加者数」や「文化活動が盛んなまちだと思ふ人の割合」の改善につながったと考える。

7次計画では、市民が気軽に文化・芸術に触れる機会を提供するとともに、子どもたちにも上質な文化芸術を継続的に提供することで、文化・芸術に参加できる環境を目指していく。

施策 16 文化に親しみ心豊かなまちをつくる
単位施策 01 市民の文化芸術活動を支援する

単位施策主管課【文化芸術課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

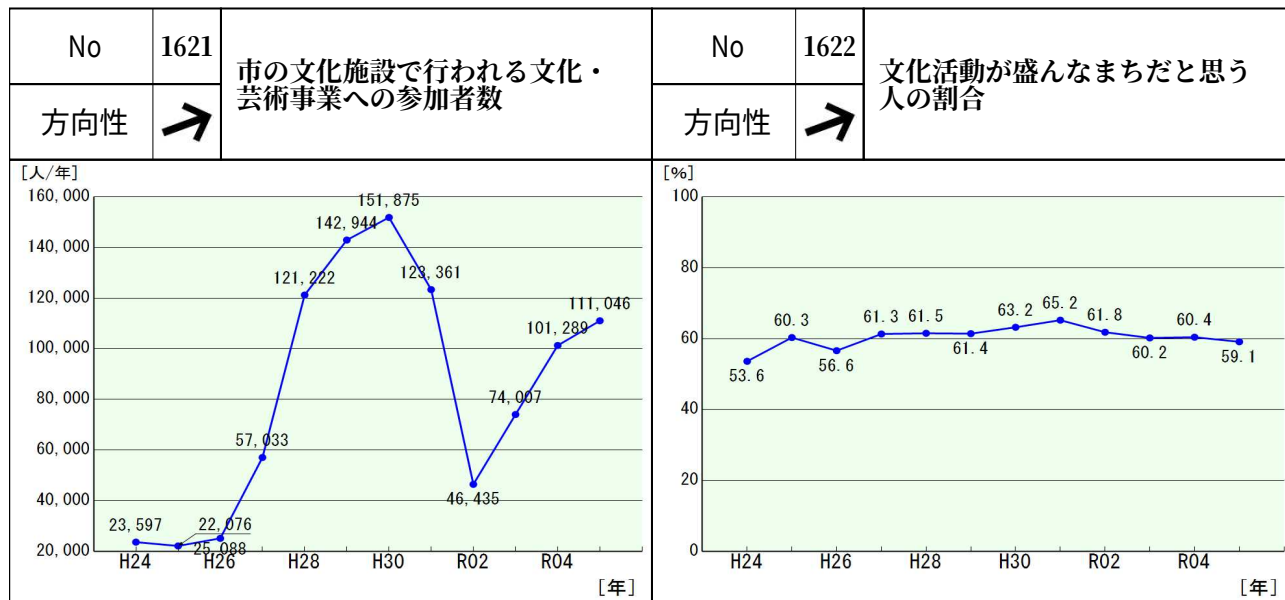
単位施策の評価

成果指標は、基準値に近い数値で推移したものの届かず、単位施策は横ばいで推移した。
「個展・展覧会の催し物の開催数」については、令和元年以降、市内施設の臨時休館や施設利用の制限の影響を受けて開催を中止したり規模を縮小したりする団体等が増加し、その結果活動を再開しない団体も多く、横ばいの推移につながったと考える。また、学業をはじめとした様々な活動がコロナ禍以前に戻ったことにより、文化芸術活動に割く時間が減少したことも要因の一つであると考えられる。
7次計画では、引き続き、市内各所で多くの人が気軽に文化芸術活動に参加し、さらに気軽に作品の制作体験や鑑賞ができるよう、文化芸術活動の支援を続けていく。

施策 16 文化に親しみ心豊かなまちをつくる
単位施策 02 感動が生まれる文化芸術を提供する

単位施策主管課【文化芸術課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

単位施策の評価

成果指標2指標とも基準値から向上しており、単位施策は順調に進展した。
「文化・芸術事業への参加者数」は、芸術劇場の開館以降、芸術劇場を中心に市内各所で、鑑賞機会の提供やアウトリーチ等の様々な事業を展開してきたことが影響していると考え。
「文化活動が盛んなまちだと思う人の割合」は、10代及び20代で継続的に高水準で推移しており、学業等において文化芸術活動に触れる機会の多い世代を中心に活発化していると考え。
7次計画では、市民が文化芸術に高い関心を持ち、気軽に触れ合い関わるができる機会を継続して提供していけるよう、芸術劇場をはじめ市内各所で上質な文化芸術事業の提供に取り組んでいく。

章 02 人づくり・心そだて
 節 05 文化財
 施策 17 郷土の歴史や文化を大切に継承する

理念 活力

施策主管課【社会教育課】

めざすまちの姿

地域の歴史や伝統文化が大切に守られ継承されている

施策の基本方針（総合計画から抜粋）

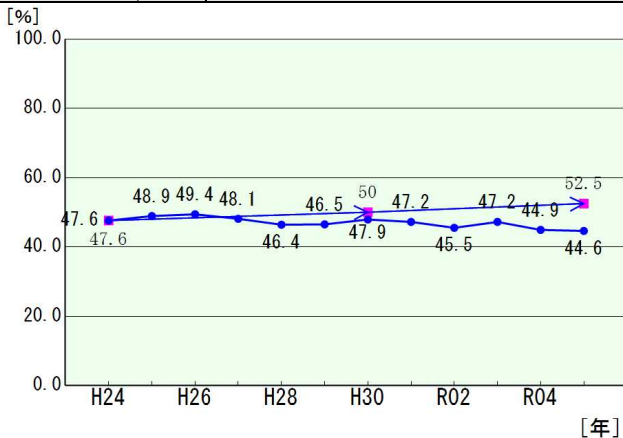
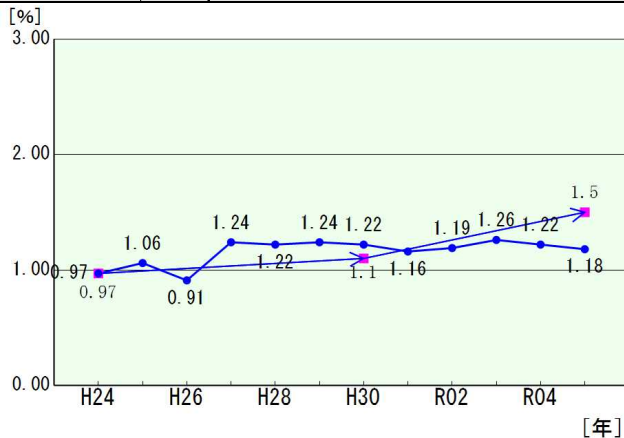
伝統文化・文化財の継承をととして、世代間の交流を図り、祭りや伝統文化・文化財を生かしてまちに愛着を持てる環境を整備します。

施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R05年度予算	R05年度決算
01	伝統文化を大切にする	54,691	54,042
02	郷土の歴史と文化に親しむ	63,673	62,798
施策合計		118,364	116,840

まちづくり指標の分析

No	0025	No	0026
方向性	→	方向性	→
郷土の歴史などに愛着を持っている人の割合		15歳～30歳の若者のなかで、伝統文化を継承している団体に所属している人の割合	
 対基準値:3.0ポイント減／基準値からの推移:△ 10年後めざそう値達成率:-61.2% 年齢別:差異有、職業別:差異有、地区別:差異有 要因:若年層の郷土の歴史への興味低下が要因と考える。比較的時間に余裕のある世代、職業が高い。		 対基準値:0.2ポイント増／基準値からの推移:△ 10年後めざそう値達成率:39.6% 要因:地域の伝統文化団体が継承を意識した活動を実施してきた効果と考える。	

めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

「愛着を持っている人の割合」は基準値から低下、「団体に所属している人の割合」はめざそう値達成率が39.6%であることから、施策は順調に進展しなかった。

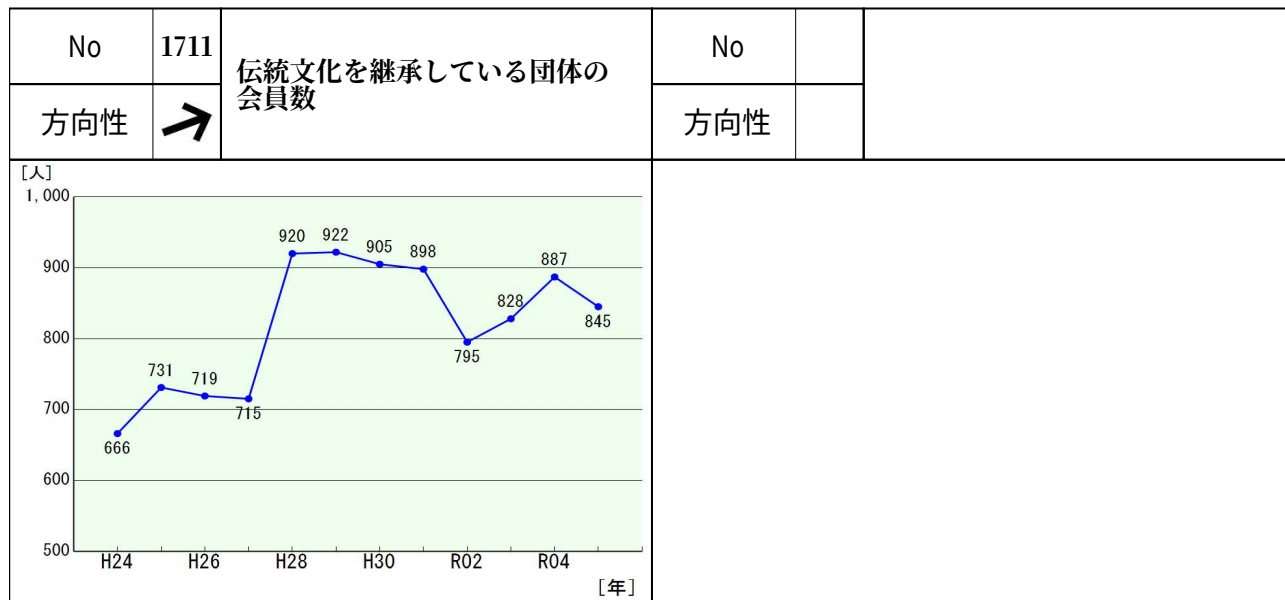
6次計画期間において、地域のまつり等の伝統文化を継承する団体の積極的な活動等により、団体に所属する若者が増加してきたものの、伝統文化や郷土の歴史への啓発が十分に行えていなかったことから、多くの市民が愛着を持つにはつながらず、基準値から低下したものと考える。

7次計画では、伝統文化や郷土の歴史を積極的に活用する事業を様々な世代に向けて実施していくことで、より多くの市民が伝統文化や郷土の歴史に愛着を持てるよう取り組んでいく。

施策 17 郷土の歴史や文化を大切に継承する
単位施策 01 伝統文化を大切にする

単位施策主管課【社会教育課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

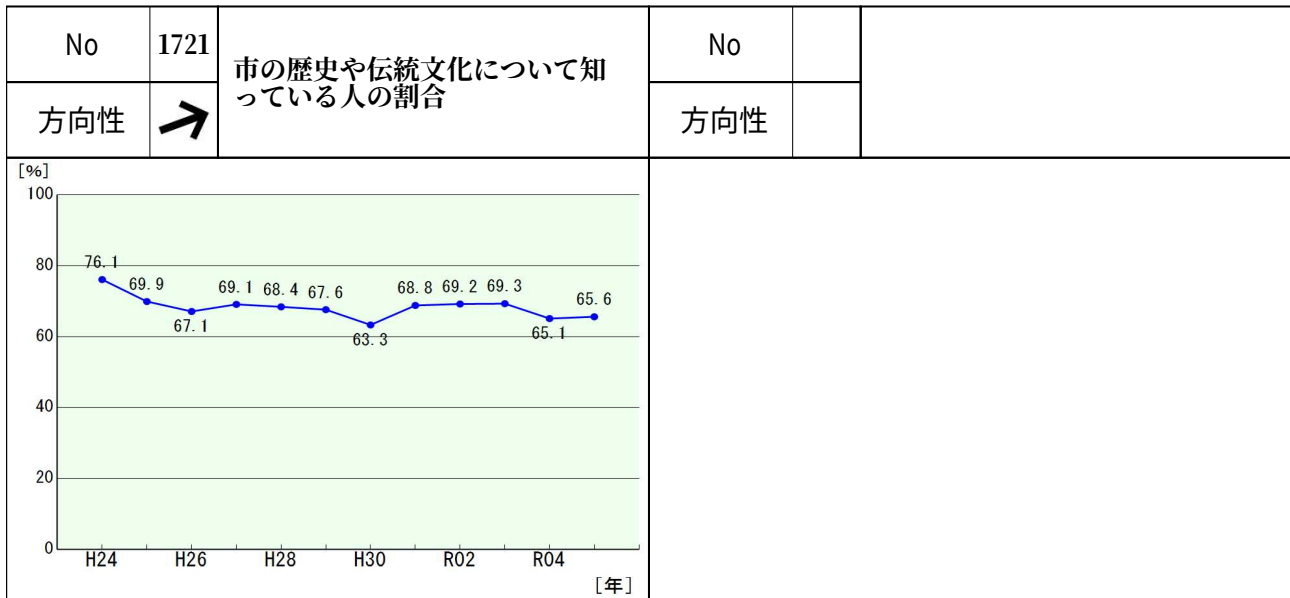
単位施策の評価

成果指標は基準値から改善しているが近年横ばい傾向が続いており、単位施策は横ばいで推移した。
 成果指標は、基準値から179人向上しており、その理由としては、各種団体が補助金等を活用し、伝統文化を継承するための活動へ積極的に取り組んでいることが要因と考える。
 7次計画では、文化財等の維持管理に対する補助事業を活用した適切な保存や文化財等に触れ合う機会の提供により、文化財・伝統文化を継承していく環境づくりに取り組んでいく。

施策 17 郷土の歴史や文化を大切に継承する
単位施策 02 郷土の歴史と文化に親しむ

単位施策主管課【社会教育課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

単位施策の評価

成果指標は基準値から低下しており、単位施策は順調に進展しなかった。
 成果指標は基準値から13.8ポイント低下しており、年齢別では若年世代の割合が低い。その理由としては、平洲記念館等において各種啓発事業を実施しているが、高齢世代の講座等の受講者が多く、若年層世代の受講者が得られていないことが要因と考える。
 7次計画では、歴史や伝統文化への関心が薄い若年層世代に対するPR方法等の工夫を検討していく。

令和5年度(2023年度)教育委員会主要事業点検・評価表

施策 10 子どもたちにとって楽しい学校をつくる

単位施策 10-1 個性と能力が伸びる授業をつくる

【学校教育課】

番号	1	事業名	授業力向上事業	事業費	2,402 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	子どもたちの学力向上には、教員の資質向上が不可欠である。各学校の実態に即した研修と研究を行うことにより、教員の授業力向上を図る。とりわけ、特別支援教育に関しては、近年の急激な特別支援学級、中でも広汎性発達障害等の子どもたちが在籍する自閉症・情緒障害学級の増加だけでなく、通常の学級にもASDやLD, ADHDといった特別な支援を要する児童生徒が一定数在籍するといわれるなど、自閉症・情緒障害及び発達障害の理解に関するニーズが高い。資格をもつ講師による「生きる力と心を育むプログラム『セカンドステップ』」を自閉症・情緒障害学級を主とした特別支援学級で実施することにより、発達障害等の子どもたちの理解と支援について教員が学び、学校生活での指導につなげていく。				
実施内容	教員の授業力向上を図るため、各校において研修・研究を実施し、特別支援教育等の充実のためのモデル校を中心とした授業研究を行った。				
目標に対する 評価	実践的・体験的な研修や授業の参観により、日頃の教育活動の課題解決につながった。また、教員が学んだことを生かして授業改善に取り組んだことで、児童生徒が意欲的に学び、主体的に考えようとする意識が高まった。				
課題・改善点	教育活動に関する先進的な取組を行う講師や、教育現場の今日的課題に指導・助言をもらえる講師を招き、モデル校を指定して研修を行うなど、先を見据えた研修を実施していく。				

【学校教育課】

番号	2	事業名	英語が話せる子ども育成事業	事業費	49,896 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	学校生活において、英語を使うことを楽しみ、積極的に英語でコミュニケーションをしようとしたり、異文化を理解し日本文化を尊重しようとしたりする児童生徒の育成を図るため、引き続き、英語指導支援員（ALT）を全校に配置し、小中学校が連携する英語・外国語活動の充実を図る。				
実施内容	ALT12人を小中学校に配置し、「英語のあいさつ」「ゲーム」「英語の歌」など音声中心の活動で、主に英語の音やリズムに慣れ親しむ活動や、コミュニケーションを楽しむ授業を行った。また、日本とは				

番号	2	事業名	英語が話せる子ども育成事業	事業費	49,896 千円
		異なる外国の文化等を紹介することで、子どもたちに興味をもたせることができた。授業の他、学校行事等でも子どもたちと過ごすことにより、自然に英語でコミュニケーションをとることができた。			
目標に対する評価		令和5年(2023年)12月に、小学5・6年生と中学1・2年生を対象に「ALTとの授業についてのアンケート」を実施し、小学5年生は85%、小学6年生は85%、中学1年生は94%、中学2年生は89%がALTとの授業が好きであると答えている。また、英語が使えるようになりたいと考えている児童生徒は、小学5年生は78%、小学6年生は77%、中学1年生は84%、中学2年生は78%であった。この結果から、小学校及び中学校の英語科における接続はおおむね良好といえる。ALTが歌やゲーム等、児童生徒にとって親しみやすい活動を取り入れたり、ALTが話す母国語レベルの英語に触れたりすることによる効果が大きい。また、英語への関心意欲を持続させることもできている。			
課題・改善点		ALTとの授業が好きではないと回答する子の理由に、小中学校共通して「ALTが何を言っているのかわからない」「外国の人だと思って緊張する」という意見がある。今後も、歌やゲームを取り入れながら楽しい雰囲気の中で英語に親しめるようにするとともに、授業の中で児童生徒が身近な生活場面を想定しながら日本語を使わないで英語でコミュニケーションできる場面を設定することで、英語に興味を持ち慣れさせる授業を工夫する必要がある。			

【学校教育課】

番号	3	事業名	小学校水泳授業民間施設活用事業	事業費	35,358 千円
令和5年度(2023年度)の計画・目標		民間施設を活用して水泳授業を行うことで、教員のプールの維持管理の負担軽減を図るとともに、施設の維持管理コストの減少を図る。さらに、専門のインストラクターの指導補助により、児童のレベルに合わせた質の高い授業を行う。また、水泳授業の質の向上・平等性の確保のため、民間施設を活用しない小学校にインストラクターを派遣する。			
実施内容		名和小、渡内小、平洲小、明倫小、富木島小、船島小、大田小、加木屋南小において民間施設等のプールを使用するとともに、全小学校でインストラクターの指導補助による水泳授業を実施した。			
目標に対する評価		民間施設を活用することで維持管理の負担軽減が図られ、また、天候に左右されず円滑に授業を行うことができた。 また、水泳授業の指導補助にインストラクターを配置することで児童に合わせた授業を行うことができた。			

番号	3	事業名	小学校水泳授業民間施設活用事業	事業費	35,358 千円
課題・改善点	学校プールの老朽化により民間施設を活用する学校が増えた際に、市内の民間施設のみで秋季までに授業を実施することが難しくなるため、西知多医療厚生組合の健康増進施設の活用も含め調整する必要がある。				

単位施策 10-2 いじめ・不登校対策を充実させる

【学校教育課】

番号	1	事業名	不登校対策事業
		事業費	15,906 千円（SSW人件費は職員課予算）
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	不登校傾向等の問題を抱える子どもたちに対して、豊かな人間関係や社会性の育成など、自立への基盤づくりを支援するため、適応指導教室「ほっと東海」の運営や、宿泊体験活動「青空教室」を実施するとともに、スクールカウンセラー並びにスクールソーシャルワーカーを配置し、子どもたちの早期の学校復帰などを支援する。		
実施内容	適応指導教室「ほっと東海」では、教育相談員と教科指導員、サポーターを上野公民館教室及び横須賀教室に各1名ずつ配置し、不登校の要因、不登校による学習の遅れ等をきめ細かく指導している。9月16日から3日間、国立若狭湾青少年自然の家で青空教室を実施した。 また、スクールカウンセラーについては、県からの派遣が充分でない小学校へ4人派遣し、不登校傾向の児童への支援を行い、スクールソーシャルワーカーは、拠点校を中心に各機関と連携しながら家庭的背景を要因とする不登校傾向の児童生徒に対し、福祉等の観点から効果的な働きかけを行った。		
目標に対する 評価	不登校傾向にある児童生徒に対して居場所や学ぶ場の提供、自立のための援助をすることができた。		
課題・改善点	生活リズムの乱れ等を要因とする登校渋りや、中1ギャップなど複合的な要因により不登校傾向の児童生徒の増加が見受けられることから、教員やほっと東海、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによるグループ支援を強化し、必要に応じて関係機関との連携を深め、不登校の未然防止や解消に繋げていく必要がある。		

【学校教育課】

番号	2	事業名	学校の居場所づくり事業	事業費	18,575 千円
令和 5 年度 (2023 年度)の 計画・目標	不登校やいじめの原因解消と、子どもたちが抱える問題の早期発見につなげるため、心の不安や体調不良を訴え、保健室などに居場所を求める子どもたちに対し、その相談相手となる養護教諭と連携して対応する「心の相談員」を配置する。				
実施内容	令和 5 年度(2023 年度)は、小学校 6 校、中学校 6 校に心の相談員を配置し、複数の目で見守ることにより、相談しやすい環境を整えた。				
目標に対する 評価	保健室に養護教諭もしくは心の相談員のどちらかがいることで、来室した児童生徒と話をすることができ、子どもたちに安心感をもたらすことができた。また、気になる子どもの情報共有を行うことで、不登校傾向の子どもの早期発見にもつながり、不安解消への一助となっている。				
課題・改善点	県の養護教諭に欠員が出た際、養護教諭の資格をもつ本市の心の相談員が県採用の養護教諭となることにより心の相談員が欠員となるケースが度々ある。子どもたちが安心して来室できるよう、安定した配置を図る必要がある。				

【学校教育課】

番号	3	事業名	いじめ防止等対策事業	事業費	795 千円
令和 5 年度 (2023 年度)の 計画・目標	東海市子どものいじめ防止条例の制定を受け、子どものいじめ防止等対策委員会を設置し、いじめの全市的な傾向や実態を把握・分析し、いじめ対策を推進する。 また、子どもたち自身がいじめを防ぐために何ができるかを考える機会とするため、「東海市子どものいじめ防止サミット」を開催する。				
実施内容	平成 28 年(2016 年)4 月に東海市子どものいじめ防止条例が施行されたことに伴い、年 2 回東海市子どものいじめ防止等対策委員会を開催し、本市のいじめの状況や学校での取組み、今後の課題等について協議した。また、いじめ事案における調査等の対応に当たり、対策委員会から選任した委員などを部会員として専門部会を設置し、調査を行っている。 また、平成 28 年度(2016 年度)より、「東海市子どものいじめ防止サミット」を立ち上げ、市内 18 小中学校から選出された代表児童生徒がいじめに対する意見交換を行っており、令和 5 年度(2023 年度)は、対面形式とオンライン形式で各 1 回、合計 2 回サミットを実施した。各校の代表が、自校の取組状況の報告をしたり、他校の取組に対する質問をしたり、東海市全体として取り組みたいことについて意見を交換した。また、サミットの提言を受け、生徒指導研究部会では、いじめ防止の力を育むための「いじめ未然防止プログラム」の検証授業を行				

番号	3	事業名	いじめ防止等対策事業	事業費	795 千円
	った。				
目標に対する評価	「いじめ防止サミット」の活動として、各校の児童会・生徒会が中心となっていじめ防止のために何ができるのかを考え、子どもたちが主体的に活動をすることができ、「いじめをしない・させない・見逃さない」の意識が高まっている。 また、「いじめ未然防止プログラム」が各校で行われ、子どものいじめ防止に向けた取組みが計画的に実施された。				
課題・改善点	いじめの中には、インターネットやSNSによるトラブル、コミュニケーション不足から始まるものもあるため、情報モラル教育の推進や教員の資質向上に取り組むとともに、子どもの自己肯定感を高め、学校に居場所があることを感じられるような魅力的な学校づくりなど、未然防止に力を入れる必要がある。 また、いじめ防止サミットで各学校がいじめ防止に向け取組んだ内容を拡散し、継続していじめのない学校づくりに取り組んでいく。				

単位施策 10-3 快適で安全な学校生活を充実させる

【学校教育課】

番号	1	事業名	小中学校等改修事業	事業費	493, 684 千円
令和 5 年度 (2023 年度)の 計画・目標	東海市学校施設長寿命化計画に基づく学校施設の老朽化対策としての予防保全と教育環境の質的な向上を併せて実施する長寿命化により、校舎等の改修や設備の取替を計画的に行う。				
実施内容	外壁改修（富木島小、三ツ池小、名和中、加木屋中）、防水改修（大田小、名和中、加木屋中）、下水道切替（名和中）、屋内運動場空調機設置（富木島中、加木屋中）、非構造部材改修（富木島中、横須賀中）、避難器具取替（名和中、上野中）を行った。				
目標に対する評価	令和 5 年度(2023 年度)に実施する施設整備は年度内に完了し、児童生徒が快適に学校生活を送ることができる環境を確保することができた。				
課題・改善点	児童生徒が快適で安全・安心な学校生活が送れるよう学校施設長寿命化計画に基づき、計画的な更新や改修を実施する必要がある。				

【学校教育課】

番号	2	事業名	小学校トイレ洋式化整備事業	事業費	94, 359 千円
令和 5 年度 (2023 年度)の 計画・目標	学習環境及び学校での生活環境を充実させるため、トイレの洋式化によりトイレの環境改善を図る。				
実施内容	小学校 18 校の低学年及び特別支援学級の児童が利用する普通教室に面したトイレ 161 カ所の洋式化及び小便器自動洗浄器設置を行っ				

番号	2	事業名	小学校トイレ洋式化整備事業	事業費	94,359 千円
目標に対する評価	洋式化及び小便器自動洗浄器設置により、児童がトイレを利用しやすくなり、児童生徒の学習環境及び学校での生活環境の改善を図ることができた。				
課題・改善点	洋式化など小中学校トイレの環境改善に寄与する事業を今後も計画的に実施する必要がある。				

【学校教育課】

番号	3	事業名	平洲小学校施設整備基本計画策定事業	事業費	5,900 千円
令和5年度(2023年度)の計画・目標	平洲小学校の建替えに向け、現状と課題、備えるべき機能等、設計の前提となる整備方針等を整理し、基本計画を策定する。				
実施内容	学校の現状や課題の整理、備えるべき機能等を教職員、児童（5、6年生）及び保護者へのアンケート調査等により整理した。				
目標に対する評価	教職員によるワークショップやアンケート調査により、今後備えるべき機能等を把握することができた。				
課題・改善点	把握した課題等を整理し、校舎の配置や規模を引き続き検討し、新しい時代に求められる学習環境の整備を進めていく必要がある。				

【学校教育課】

番号	4	事業名	中学校特別教室空調機設置事業	事業費	135,465 千円
令和5年度(2023年度)の計画・目標	学習環境及び学校での生活環境を充実させるため、中学校の音楽室、理科室、美術室に空調機を設置する。				
実施内容	中学校の特別教室（音楽室1教室、美術室1教室及び理科室2教室）へ空調機設置を行った。				
目標に対する評価	空調機設置により、児童生徒の学習環境の改善を図ることができた。				
課題・改善点	小学校の特別教室についても環境改善に寄与する事業を今後も計画的に実施する必要がある。				

【学校教育課】

番号	5	事業名	各種サポート事業	事業費	108,077 千円
令和5年度(2023年度)の計画・目標	児童生徒に対し必要な支援ができるようにするため、目的に応じて特別支援教育支援員及び障害児サポーター、読書活動サポーターを配置し、学校生活の支援の充実を図る。				

実施内容	特別支援教育支援員を各小学校に1～3人(計20人)配置し、発達障害の傾向がある児童に対して必要な支援を行った。また、身体障害があるなど、校内生活における安全管理が必要な児童生徒に対し、障害児サポーターを15小中学校に1～4人(計33人)配置し、対象児童生徒の補助等を行った。 また、各小学校に読書活動サポーター1人(計12人)を配置し、図書館整備や図書委員会の補助、本の読み聞かせ等を行った。
目標に対する評価	特別支援教育支援員の配置により、通常の学級に在籍する発達障害の傾向にある児童生徒が学校生活を送る上で必要な支援を行うことができ、在籍する学級運営に有効であった。さらに、障害児サポーターの配置は障害により校内での安全管理が必要な児童生徒への合理的配慮の提供となり、それぞれの児童生徒が安心して通学し、学校生活を送ることができるようになった。
課題・改善点	特別な配慮を要する児童生徒が増加傾向にある中で、障害児サポーターや特別支援教育支援員の配置等について十分な検討が必要である。

単位施策 10-4 出会いと体験の場を提供する

【学校教育課】

番号	1	事業名	林間学習事業	事業費	7,471 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	自然環境に恵まれた愛知県野外教育センターでの集団宿泊生活や自然体験活動を通して、自己の可能性の発見、他者への思いやりと協調性など、人として持つべき社会性を育むことを目的とする。				
実施内容	小学校5年生全員を対象に、岡崎市の愛知県野外教育センターにおいて、1泊2日で自然観察会、ハイキング、クラフトづくり、沢遊び等のレクリエーション活動を実施した。				
目標に対する評価	1泊2日で実施し、子どもたちが自然豊かな環境での集団生活を通して、よりよい人間関係を築くとともに、通常の学校生活とは異なる体験をすることで心身ともに調和のとれた健全な育成を図ることができた。				
課題・改善点	現地周辺に医療機関が少ないことを想定した対策を検討していく必要がある。				

【学校教育課】

番号	2	事業名	沖縄体験学習事業	事業費	100,060 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	沖縄の持つ豊かな自然や文化・歴史・風土に触れることにより視野を広げるとともに、ふるさと東海市を客観的に見つめ、平和を愛し、命の大切さを学ぶことを目的とする。				
実施内容	中学校2年生全員を対象に、沖縄市及び渡嘉敷島などにおいて3泊4日の体験学習を実施し、海洋研修による自然体験、平和学習及び沖縄市立中学校での学校間交流などの活動を行った。				
目標に対する 評価	事業実施後のアンケートでは、「語り部の方からの話を聞き、子どもが当たり前のように死んでいく戦争の恐ろしさを感じた。」「姉妹都市である沖縄市の中学校と交流をした際、短い時間であったが話せたのがとても嬉しかった」などの感想があり、96.7%の生徒が「とてもよかった」、「よかった」と回答している。また、生徒が平和等について考える貴重な経験となり、生徒の心に残る体験学習となった。				
課題・改善点	台風など、天候の影響により、急な行程変更が発生することが想定されるため、生徒が安全安心に活動ができ、また、事前学習の成果が達成できるような方策を検討していく必要がある。				

【学校教育課】

番号	3	事業名	①小学生親善交流事業 ②中学生親善交流事業
		事業費	①5,024 千円（米沢市 2,169 千円、釜石市 2,855 千円） ②1,410 千円（米沢市 381 千円、沖縄市 1,029 千円）
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	姉妹都市である米沢市や釜石市、沖縄市との交流を通して、相互の歴史や文化の理解を深めるとともに、団員相互の連帯と協調を図ることを目標とする。		
実施内容	① 小学生親善交流事業 【米沢市】 市内小学校5年生の代表24名で構成する親善訪問団を2月10日から3日間米沢市へ派遣し、雪灯籠・雪ぼんぼりの制作、上杉雪灯籠まつり・上杉博物館等の見学、雪ん子少年団との交流を実施した。 【釜石市】 市内小学校6年生の代表24名で構成する親善訪問団を8月23日から3日間釜石市へ派遣し、釜石市小学生との交流活動、いのちをつなぐ未来館・鶴住居復興スタジアムの見学、被災者の方の講話等を実施した。 ② 中学生親善交流事業 【米沢市】 米沢市の中学生14人を7月26日から3日間受け入れ、平洲記念		

番号	3	事業名	①小学生親善交流事業 ②中学生親善交流事業
		事業費	①5,024 千円（米沢市 2,169 千円、釜石市 2,855 千円） ②1,410 千円（米沢市 381 千円、沖縄市 1,029 千円）
		館、芸術劇場（嚶鳴広場・対面の像）の見学、中部国際空港（セントレア）見学、陶芸体験及び日本製鉄株式会社名古屋製鉄所の工場見学等を行い、4 年ぶりに対面による親善交流を実施した。 【沖縄市】 沖縄市の中学生 16 人を 12 月 1 日から 4 日間受け入れ、平洲記念館、日本製鉄名古屋製鉄所の工場見学、大田まつりの山車蔵等の社会見学や交流会等を行い、東海市の魅力を十分に伝えることができた。	
目標に対する評価		① 小学生親善交流事業 【米沢市】 子どもたちが、平洲先生と鷹山公との絆が現代に引き継がれていることを自分たちの体験を通し、知ることができた。また、団員たちとの共同作業や体験活動を通して、協調性や相互扶助の精神を身につけることができ、今後の生活に生かそうとする姿勢が見られた。 【釜石市】 釜石市に訪れることで震災の悲惨さや防災教育の大切さを身に染みて学ぶことができた。また、姉妹都市である両市の関わりや互いの文化や歴史について理解を深めることができた。 ② 中学生親善交流事業 【米沢市】 4 年ぶりに対面による交流を行うことができ、両市の郷土の違いを知り、東海市の良さに改めて気づくきっかけとなった。また、先施の心をもって米沢市訪問団をもてなすことができ、細井平洲先生と上杉鷹山公のように、両市の訪問団員の絆も深まった。 【沖縄市】 中学 2 年生で訪れる沖縄市をより深く感じ取ることができた。互いの郷土の違いを知るとともに、東海市の良さを再発見するきっかけとなった。また、おもてなしをする立場として、相手に対する気遣いや、積極性を学ぶことができた。	
課題・改善点		団員たちが本事業を通して学んだことを他の児童生徒にも伝え、市全体で姉妹都市の文化や歴史等について理解を深めていく必要がある。	

単位施策 10-5 食の大切さと楽しさを理解させる

【学校教育課】

番号	1	事業名	食育推進事業	事業費	848,655 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	老朽化した施設の修繕及び厨房備品を更新し、安全な学校給食を提供する。また、地場産物の利用拡大、地元企業との連携、献立の工夫等により楽しい学校給食を提供する。 栄養バランスにすぐれ、子どもたちの成長に必要な摂取カロリーを満たすことができる適切な学校給食を提供する。				
実施内容	施設面では、明倫調理場・加木屋調理場の廃水処理施設整備工事を行った。厨房備品については、明倫調理場の食器消毒保管機1台、加木屋調理場のスチームコンベクションオーブン1台、フードスライサー1台を更新した。 献立については、毎月10日には「トマトの日」、19日には「東海市もぐもぐ食育デー」として、地元企業と連携したトマト給食や、地場産物を多く利用した特別献立、また、「姉妹都市の郷土料理を味わう日」として、姉妹都市の郷土料理を取り入れた学校給食の提供を行った。 残菜量については、毎月19日には「残さず食べよう平洲くんポスター」を各クラスに掲示し、学校と栄養教諭が連携して食育指導の中で啓発を行ったり、食べ残しの多い献立については、栄養バランスを考えながら味の工夫を行ったりした。				
目標に対する 評価	調理業務環境を整えることにより、安全な給食の提供を行うことができた。 また、地元企業との連携、地場産物や郷土料理を取り入れたことにより、地域の食文化や食に関する産業の理解を深めることができた。 残菜量については、令和4年度(2022年度)が22,305 kg、令和5年度(2023年度)が23,172 kgで、令和4年度(2022年度)に比べて867 kg増加となった。理由としては、インフルエンザ等の感染症等により当日の欠食者が増えたことや食べ残しの指導の変化も影響していると考えられる。 残菜量の削減を図るため、健康な体をつくるためには必要な量であることを伝え、栄養教諭と協力しながら、給食への興味、食の大切さや食べる意欲を高める食育指導を継続して行っていく必要があると考えている。				
課題・改善点	老朽化した施設・設備の計画的な更新や修繕を行い、引き続き安心安全な給食を提供する必要がある。				

施策 11 学校、家庭、地域が連携して子どもの健全な成長を支える

単位施策 11-1 地域に開かれた学校をつくる

【学校教育課】

番号	1	事業名	学校支援協議会設置事業	事業費	3,882 千円
令和 5 年度 (2023 年度)の 計画・目標	保護者や地域住民に学校の運営、支援、評価に対する理解と協力を得つつ、地域のボランティアに支えてもらう開かれた学校づくりを進めるため、小学校で学校支援協議会を運営する。				
実施内容	平成 24 年度(2012 年度)より配置したボランティアコーディネーターを活用して、学校のニーズに基づいて、地域住民が学校運営に参画した。				
目標に対する 評価	令和 5 年度(2023 年度)は 7,866 人が学校支援ボランティアとして活動しており、前年度に引き続き、令和元年度(2019 年度)以前と比較して減少しているが、これは新型コロナウイルス感染症の影響により、ボランティア活動を中止していた時期があったことなどによるものだが、順調に回復している。学校評価アンケートでは、約 7 割の地域住民が「学校からの協力依頼があれば、できるだけ協力したい」と回答しており、今後の事業への活かし方を検討していく。				
課題・改善点	ボランティアコーディネーターを活用して、学校のニーズと地域住民のボランティアへの意欲とのマッチングをする必要がある。				

【学校教育課】

番号	2	事業名	学校評価事業	事業費	1,067 千円
令和 5 年度 (2023 年度)の 計画・目標	学校運営の改善を図り、開かれた学校、地域に信頼される学校づくりを進めるため、各小中学校で学校評価を実施する。				
実施内容	児童生徒、保護者、教員及び地域に対し、それぞれの学校の方針や学校運営の方向性等についてのアンケートを実施した。また、教育活動、学校運営の自己評価も行い、アンケート結果とともに公開した。経年変化を見ていく項目と重点に絞る項目と区別をしっかりとアンケート項目を精選した。				
目標に対する 評価	学校の重点目標を明確にしたアンケートを実施することにより、今年度取り組んできた教育活動を客観的に振り返ることができた。また、その結果を基に、来年度の教育方針を立てる一助となった。さらに、アンケート項目を精選したことにより、成果と課題が明確になった。				
課題・改善点	より評価しやすいアンケート項目の検討を行うとともに、学校評価アンケート以外での評価指標の検討を行っていく必要がある。				

単位施策 11-2 笑顔と愛にあふれる子どもを地域の連携で育てる

【社会教育課】

番号	1	事業名	放課後子ども総合プラン推進事業	事業費	174,731 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	子どもたちの安全で安心な居場所の提供と、多様な体験活動を推進すると共に、地域全体で子どもの健全育成を図るため、子ども教室と放課後児童クラブを連携して実施する。				
実施内容	子ども教室では、小学校の特別教室等の施設を活用し、地域住民等の協力を得て、文化活動やスポーツ、学習活動等を実施した。ものづくり特別教室（ものづくり道場）については、コロナ禍前の規模に戻して実施した。 放課後児童健全育成事業では、児童の入退室管理システムの導入、利用料等のキャッシュレス決済導入等のICT化を実施した。 放課後子ども総合プラン運営委員会を9月と3月に開催した。				
目標に対する 評価	子ども教室と放課後児童健全育成事業を連携して実施し、子どもたちにとって安全・安心な居場所を確保することができた。 子ども教室については、令和4年度（2022年度）より引き続き拡充して実施しているスポーツ等体験機会の中でも、サッカー教室を初めて校庭で実施した。また、感染対策として行っていた、児童の人数制限を解除し、講師が定める定員に戻して実施したため、多くの児童が参加し、様々な体験機会を提供できた。 放課後児童健全育成事業については、児童の入退室管理システムの導入、利用料等のキャッシュレス決済導入等のICT化により児童の安全性及び保護者の利便性を向上することで、就労する保護者の支援ができた。 放課後子ども総合プラン運営委員会を9月と3月に開催し、明倫小学校の子ども教室と放課後児童クラブの一体型運営の視察を行い、学校教育課、女性・子ども課と連携して総合的に協議することができた。 【子ども教室】 12 小学校 ・延べ参加者数(体験教室) 10,238 人(前年度比較 1,230 人増) 1 回当たり 11.8 人 ・教室開催回数 866 回(前年度比較 56 回増) ・延べボランティア講師数 1,473 人(前年度比較 199 人増) 【ものづくり特別教室（ものづくり道場）】 ・実施ブース数 25 ブース(事前予約 10 ブース、当日参加 15 ブース) ・来場者数 1,400 人 【放課後児童健全育成事業】 12 小学校 平日 1 日当たり平均利用人数 818 人(前年度比較 51 人増)				

番号	1	事業名	放課後子ども総合プラン推進事業	事業費	174,731 千円
課題・改善点	子ども教室は、人気教室にとらわれることなく、様々な内容の教室に取り組み、豊かな体験活動の場を提供していく。近年、各地で夏季の猛暑による児童生徒の熱中症事故が増加しており、夏季の体験教室については、熱中症対策の観点からも安全管理に努める必要がある。夏季（5月～9月）における体育館及び校庭での体験教室については、暑さ指数（WBGT）を考慮した運営方法で実施していく。 放課後児童健全育成事業は、児童を安全・安心に預かることができるよう、適切なクラブ室や指導員の確保が肝要であるが、利用者数が増加しているクラブがあるため、利用者の増加状況に応じて、クラブ数や実施場所の拡大、指導員の確保に努める必要がある。				

【社会教育課】

番号	2	事業名	学習支援教室開催事業	事業費	2,390 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	家庭学習が十分でなく、学習習慣が身につけていない中学生を対象に、学習する場を提供して生徒の居場所をつくとともに、学習習慣を身につけることで基礎学力の向上を支援する。また、市内在住の生徒を広く受け入れるため、開催場所を市内南北2か所に設定して実施する。				
実施内容	市内の6中学校の全学年生徒を対象に、毎週土曜日及び日曜日に市内南北2か所で実施し、学習支援員等による学習の支援を行った。 実施回数 北地区（日曜日） 42回 南地区（土曜日） 43回 延べ参加者数 北地区（日曜日）410人 南地区（土曜日）1,094人				
目標に対する 評価	北地区、南地区ともに出席率は良好であり、生徒の居場所づくり及び基礎学力の向上につながったと考える。また、中学3年生の参加者について、全員進学することが決定した。生徒からは「学校とは違い、緩い感じの学び舎で安心できる」等の感想もあり、不登校や発達障害の状況にある生徒も参加できていることから、気軽に参加できる雰囲気をつくることができていると考える。				
課題・改善点	生徒の学習方法もタブレットを活用したものにシフトしてきていることから、必要な環境整備を検討していく必要がある。				

【社会教育課】

番号	3	事業名	ふれあい交流推進事業	事業費	300 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	子どもの社会性をはぐくみながら地域との交流を図る場を提供するため、幼児、小学生、中学生等の異年齢の交流や地域を始めとした大人との交流を創出する「ふれあい交流推進事業」を実施する。				
実施内容	大人と子どものふれあい活動が活発な上野中学校区、平洲中学校区、横須賀中学校区のふれあい交流事業実行委員会に委託し、異年齢の子ども同士の交流や地域住民と子どもとの交流の場を提供の計画をした。 上野中学校区では、あいさつの大切さや意義を学ぶため、中学生が中心となり、登校している児童や地域の方とあいさつを交わす「上中校区あいさつ運動」等を実施した。また、保育園と小学校の交流として、小学生が新入生を温かく迎え入れるよう手紙等を作成した。 平洲中学校区では、小学生、中学生、保護者、地域住民が協働して、校舎内外の整備及び清掃活動を行う「環境整備活動」等を実施した。 横須賀中学校区では、4月から横須賀中学校に入学する小学6年生を対象として、ミニレク体験などをおして、入学への期待を高め、中学校生活への不安等の軽減を図るため「横中レクリエーション」を実施した。 上野中学校区延べ参加人数 1,666 人 平洲中学校区延べ参加人数 430 人 横須賀中学校区延べ参加人数 390 人				
目標に対する 評価	異なる年代の子どもや大人に様々な活動を通して、貴重なふれあいの場を提供することができた。 上野中学校区では、異年齢の子どもを思いやり、温かく迎え入れるための社会性、協調性を高めることができた。 平洲中学校区では、勤労の精神を養い、地域への愛着の気持ちを高めることができた。 横須賀中学校区では、小学6年生が入学前に中学生等とふれあうことで、中学校生活への不安軽減や、入学への期待を高めることができた。				
課題・改善点	子どもが社会性を身につけるために、異なる年代の子どもや大人がふれあう機会は有効であるため、継続して実施していく必要がある。				

施策 12 青少年が健全で心豊かに成長できる環境をつくる

単位施策 12-1 青少年が活躍する場をつくる

【社会教育課】

番号	1	事業名	20歳の集い開催事業	事業費	3,638 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	20歳の集いを開催することにより、ふるさと東海市を意識する機会、また将来を担って活躍することを励ます場として「東海市20歳の集い」を開催する。				
実施内容	20歳となる参加者が将来の担い手としての自覚を持ち、社会人として責任ある行動ができるよう祝い励ます20歳の集いを実施し、1,033人が参加した。 また、20歳の集い実行委員会を組織し、20歳となる参加者目線でのアイデアを盛り込んだ企画・運営を実施した。				
目標に対する 評価	実行委員が団結し、参加者目線で企画・運営を実施したことで、多くの参加者に20歳としての自覚を促す機会を提供することができた。				
課題・改善点	令和4年度（2022年度）から民法の改正により成年年齢が18歳となったが、18歳は進学や就職を控える多忙な時期であるため、ふるさと東海市を意識する機会として、また、将来を担って活躍することを励ます場として、引き続き20歳を対象とした「20歳の集い」として継続して実施していく必要がある。また、20歳を迎える市民等により実行委員会を組織し、引き続き柔軟な発想力を生かした企画運営を推進する必要がある。				

単位施策 12-2 青少年の非行を防止する

【社会教育課】

番号	1	事業名	青少年育成センター設置事業	事業費	5,122 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	青少年が心身ともに成長できるように学校、警察、家庭、地域や関係機関と連携を図りながら、街頭パトロールや非行防止キャンペーンなど、青少年の非行防止及び健全育成を図るための活動を行う。				
実施内容	青少年育成員による街頭パトロールや、少年指導員による青色防犯パトロール、情報モラル教室、非行防止教室など青少年を有害な環境から守るための活動を行った。また、小中学生、保護者に非行防止啓発チラシを配布した。				
目標に対する 評価	地域・学校等各種関係団体及び機関が連携を図り、積極的に啓発活動を行うことで、青少年の非行防止及び健全育成に一定の成果を挙げている。				
課題・改善点	青少年を取り巻く社会環境の変化を常に察知するとともに、地域の実情に合った活動スタイルを構築し、効果的に青少年の非行防止及び健全育成の啓発を行っていく必要がある。				

【社会教育課】

番号	2	事業名	青少年居場所づくり推進事業	事業費	475 千円
令和 5 年度 (2023 年度)の 計画・目標	良好な対人関係づくりをめざす青少年の人間形成を支援し、青少年と大人の絆づくりを目的としたスポーツ大会を通して、自分自身を鍛え、人間関係を築き上げる契機とする。				
実施内容	ふれあい活動として、小中学生対象のボルダリング大会及び中学生を対象としたカートレースを実施した。				
目標に対する 評価	ふれあい活動を通して、青少年と大人との良好な関係づくりが図られ、青少年の健全育成において、成果があったものと考えている。				
課題・改善点	地域、学校、警察、各種団体等多様な関係機関との連携を一層深め、青少年が良好な人間関係を育み地域で健全に成長するために、より効果的な事業を企画・実施し、ふれあい活動を充実させていく必要がある。				

施策 13 マナーが守られ思いやりにあふれる地域をつくる

単位施策 13-1 子どもが社会性を身につけ思いやる心を育てる

【社会教育課】

番号	1	事業名	社会性を身につける事業	事業費	0 千円
令和 5 年度 (2023 年度)の 計画・目標	該当事業なし				
実施内容	_____				
目標に対する 評価	_____				
課題・改善点	_____				

単位施策 13-2 思いやり感謝し親切にできる地域をつくる

【社会教育課】

番号	1	事業名	家庭教育推進事業	事業費	805 千円
令和 5 年度 (2023 年度)の 計画・目標	子育て中の保護者の悩みを軽減し、家庭教育力を向上させるため、未就学期から思春期までの様々な世代に合わせた講座・シンポジウムを開催する。				
実施内容	【家庭教育支援事業】 未就学児をもつ保護者同士がつながりをもち、地域の家庭教育力の向上を図ることを目的に 4 回講座を実施した。 延べ参加者数 79 人				

番号	1	事業名	家庭教育推進事業	事業費	805 千円
	【家庭教育シンポジウム開催事業】 現代の子どもを取り巻く複雑な環境を家庭教育の観点から分かりやすく課題整理し、保護者の悩み解決の一助とするとともに、地域とのつながりを踏まえた家庭教育力の向上を図るため、家庭教育に関するシンポジウムを1回開催した。 参加者数 132 人				
目標に対する評価	講座等に参加することにより、保護者同士の交流が持てたり、子どものしつけやコミュニケーションの取り方等について理解を深めたり、また、子どもの言動等を理解し、親子間でのわだかまりを解消する等、家庭教育への意識を高めることができた。				
課題・改善点	家庭内等で保護者と子どもの会話やふれあいが増進する方法を伝え、保護者と子どもの良好な関係を築いた上で、正しいマナー等を教え、保護者自身も再確認することができる機会を提供していく。				

施策 14 楽しみや生きがいを感じるまちをつくる

単位施策 14-1 学び教え合う学習活動を充実させる

【社会教育課】

番号	1	事業名	地区公民館等活動推進事業	事業費	4,886 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	地区公民館等は、地域の学びの場、地域づくりを推進するため、高齢者世代、子育て世代などを対象とする魅力的な講座等を引き続き実施する。				
実施内容	地域における生涯学習の場として、その地域の特性に合った講座等を住民に提供した。 開催講座数 219 講座(前年度比較 1 講座増) 延べ開催数 1,102 回(前年度比較 40 回減) 延べ参加者数 15,958 人(前年度比較 1,095 人増)				
目標に対する評価	緑陽市民館がコミュニティセンターへ移行したものの、各館にて活発に事業を実施し、開催講座数、延べ参加者数は増加傾向となっている。その中でも従来の高齢者世代、子育て世代に対する講座に加え、日常生活に必要なものを作る手芸講座を開催したことで、幅広い世代を対象とした、地域住民の生涯学習の場を提供することができた。 また、一部の地区公民館では、星城大学の学生に講座を企画・運営してもらい、地域との交流を図ることができた。				
課題・改善点	引き続き、地域ニーズに対応した講座を実施する。				

【社会教育課】

番号	2	事業名	地域サロンカフェ推進事業	事業費	398 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	新しい利用者や利用者同士の交流が促進されるように、住民が気軽に集い交流できる地域サロンカフェを実施する。				
実施内容	加木屋市民館、三ツ池市民館、船島市民館、大田市民館、加家公民館、高横須賀公民館、平島市民館、富田公民館、富木島公民館の合計9館で実施した。 地域住民の交流の場としてサークルの紹介、活動内容や作品等の展示を実施した。 延べ参加者数 2,245 人(前年度比較 282 人減) 延べ開催回数 78 回(前年度比較 6 回増)				
目標に対する 評価	緑陽市民館がコミュニティセンターへ移行したものの、各館にてサロンカフェを活発に実施することで、地域住民のふれあい交流の場を提供することができた。 地区公民館・市民館を利用したことのない人が来館するなど、新たな人との交流が生まれ、サークル紹介や作品を展示することでお互いの活動を知ることができた。				
課題・改善点	新規利用者の確保に向けて、魅力ある企画・展示を検討する。				

【社会教育課】

番号	3	事業名	創造活動・歴史文化交流施設 ワークショップ開催事業	事業費	979 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	東海市創造の杜交流館（以下「新施設」という。）の開館に向けて、映像に親しんでもらう機会を提供することで、新施設への理解を深めるとともに、継続的に開館に向けた気運を高めることを目的として、ワークショップを開催する。				
実施内容	「創造の杜交流館開館プレ講座～スマホで作るショートムービー～」と題して、2日間の日程で開催した。 ワークショップでは、撮影のコツや映像の構成等、基礎的な知識を学ぶ座学のほか、講師指導のもと、スマートフォンを使用して、横須賀町周辺の風景等を撮影し、編集アプリで編集を行い、1分以内の映像を作成した。				
目標に対する 評価	ワークショップを通じて、動画制作に挑戦するきっかけをもつことができ、自分で映像を撮影することや、撮影した映像を編集することの楽しさを体感する機会を提供することができた。映像を身近に感じてもらい、新施設に関心をもっていただく機会とすることができた。				
課題・改善点	引き続き、新施設の開館に向けた気運を高めていく取組みを実施する。				

単位施策 14-2 読書に親しみ楽しむ機会を増やす

【中央図書館】

番号	1	事業名	子ども読書活動推進事業	事業費	7,426 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	子どもが自然に読書に親しみ、言葉を学び、感性を磨き、豊かな表現力と創造力を醸成するため、子どもが本に触れる機会の拡大と読書環境の充実を図る。				
実施内容	【子ども文庫(小学校)事業】 小学生に薦めたい本をセットした「わくわく文庫」を1～6年生は毎月1回、特別支援学級は学期ごとに学校・学級間で巡回させ、全学年で856冊の児童書を更新し、小学校間の移動時には、書籍消毒機を使用して本を除菌・消毒し、子どもの読書環境を整備した。また、小学校での読書支援では、児童向けのブックトークやおはなし会に加え本の修理などを実施した。 【子ども司書体験講座】 小学4～6年生を対象に、図書館を身近に感じ、本や読書に対する理解を深めてもらうために、窓口業務を含む図書館司書の仕事を体験する講座を実施した。 【小中学生読書状況アンケート】 「第二次東海市子ども読書活動推進計画」の進行管理の基礎資料とするため、市内小学4・6年生と中学2年生を対象に、読書意識や読書量の調査を実施した。				
目標に対する 評価	小学生に対する事業では、教室内という身近な場所に本を配置する巡回回数を増やし、子ども達が多くの本に触れたり、図書館の施設や仕事に興味を感じたりしてもらうことができた。				
課題・改善点	「わくわく文庫」は児童の生活に定着してきているが本の傷みが多く出ているため、今後も計画的に更新していく必要がある。				

【中央図書館】

番号	2	事業名	中央図書館運営事業	事業費	35,589 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	生涯学習の拠点として広く市民に親しまれる図書館を目指し、市民の多様な要望に応えられる図書館運営を行う。				
実施内容	幅広い年齢層の市民が本に親しみ、必要とする情報を得られる場を提供した。子ども達を物語の世界へ誘い込むきっかけづくりとして、読み聞かせボランティアの協力による「お話友の会」等の実施及び読み聞かせ活動の活性化を図るため、読み聞かせに関する初心者向け講座を開催した。 また、図書館をより身近に感じてもらうため、各種展示会や「本のリサイクル日」等を実施するとともに、小学生の施設見学の受入れ及				

番号	2	事業名	中央図書館運営事業	事業費	35,589 千円
	び読書感想文コンクールの実施など、学校との連携も図った。				
目標に対する 評価	市民の生涯学習機会を充実させるため様々な事業を実施できた。子ども向けの「お話友の会」は75回実施し、計1,089人が参加、「読み聞かせボランティア講座」は絵本の選び方から読み聞かせの全体の流れを学ぶ基本的な内容から、受講者が互いに読み聞かせを行う実践的な内容で、今後の読み聞かせ活動のスキルアップにつなげることができた。子どもの読書習慣を形成していくうえで、読書の幅を広げていける環境を整えられたこと、また保護者に対して読み聞かせの大切さを啓発することができた。 また、季節や時事に合わせた図書の展示を実施し、幅広い世代に図書館をアピールしたと評価できる。				
課題・改善点	中央図書館、横須賀図書館はともに建築から40年以上経過し、施設の老朽化、駐車場の不足等が課題で、計画的な施設修繕や市民の利便性の向上を検討する必要がある。市民にとって利用しやすく、興味や関心を引く本が紹介できる環境の整備と蔵書の充実を目指していく。				

【中央図書館】

番号	3	事業名	日本福祉大学図書館連携事業	事業費	381 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	市民の読書機会を増やし、生涯学習活動を充実させるため、日本福祉大学東海キャンパス図書館と連携する。				
実施内容	日本福祉大学東海キャンパス図書館に一般市民向けの本・雑誌を配本した。				
目標に対する 評価	小説や実用書等一般市民向け図書98冊と雑誌20誌を配本し、市民の生涯学習の場を増やすことができた。				
課題・改善点	一般市民が大学図書館を気軽に利用できるよう、「図書館だより」等で周知を図る必要がある。				

施策 15 だれもが気軽にスポーツライフを楽しむ元気なまちをつくる

単位施策 15-1 スポーツに親しむ機会を提供する

【スポーツ課】

番号	1	事業名	東海ハーフマラソン開催補助事業	事業費	30,000 千円
令和5年度(2023年度)の計画・目標	市民のスポーツに対する興味関心を高め、スポーツ振興及び心身両面にわたる健康の保持増進につなげていくとともに、全国からの交流人口を拡大し、にぎわいの創出と地域経済の活性化を図っていくため、ハーフマラソン大会の開催に向けて補助を行う。				
実施内容	開催日：令和5年（2023年）12月10日 場所：名鉄太田川駅周辺一帯 種目：【ハーフマラソンの部：定員3,000名】 2,638名 参加 【10kmの部：1,000名】 869名 参加 【2kmの部：1,000名】 911名 参加				
目標に対する評価	3回目の開催で、初めて募集定員を満たし、当日は、県内外から4,418名が参加したことで、交流人口の拡大及び太田川駅前を中心としたにぎわいの創出と地域経済の活性化を図ることができた。				
課題・改善点	暑さの影響で、救急搬送事案が2件発生した。引き続き、緊急時に迅速な対応が行えるよう、連携の強化等図っていく必要がある。				

【スポーツ課】

番号	2	事業名	総合型地域スポーツクラブ補助事業	事業費	24,500 千円
令和5年度(2023年度)の計画・目標	総合型地域スポーツクラブである一般社団法人スポーツクラブ東海の活動に対して補助を行い、市民のスポーツ振興並びに健康増進を図るため、各競技による市民大会等の実施や、幅広いニーズに応じたスポーツ教室等を開催する。				
実施内容	【競技スポーツ部門】 ・市民大会等の実施（26競技種目で約100回 ※昨年度は25競技種目で約80回） ・小中学生を対象とした教室等の実施 ・指導者講習会、審判講習会等の実施 【スポーツ振興部門】 「春だ！わくわくキッズスポーツ体験会」や「レディースソフトエアロスクール」をはじめ子どもから大人まで気軽に参加できる13のスポーツ事業を開催した。 【一般会員数】（R4） （R5） 競技部門：4,835人 → 5,222人				

番号	2	事業名	総合型地域スポーツクラブ補助事業	事業費	24,500 千円
		振興部門： 316 人 → 303 人 計 5,151 人 → 5,525 人			
目標に対する評価		一般会員数については、昨年度と比較して増加し、コロナ禍前の水準まで戻った。 競技スポーツ部門においては、中学生を対象としたスポーツ教室であるジュニアクラブにおいて、柔道とバレーボールを新設したことで、新たなニーズへの対応ができ、ジュニア世代のスポーツ振興及び競技力の向上を図ることができた。 スポーツ振興部門においては、引き続き多くの事業を実施し、スポーツを楽しむきっかけ作りの場を提供することができた。			
課題・改善点		会員数は増加したが、スポーツ振興事業において、参加者が規定の人数に届かず未実施となった事業もあるため、市民のニーズに対応した事業を実施するとともに効果的な PR に努める必要がある。			

【スポーツ課】

番号	3	事業名	スポーツ推進委員会設置事業	事業費	7,524 千円（当初:9,044 千円）
令和 5 年度 (2023 年度)の 計画・目標		各種スポーツの市民大会運営や、各種団体との連携によるスポーツ教室・スポーツイベント等を開催し、市民のスポーツ振興及び健康増進を図る。			
実施内容		【会議関係】 スポーツ推進委員会全体委員会 年 12 回 【大会関係】 ・市民ペタンク大会 令和 5 年（2023 年）5 月 13 日 参加者 37 人 ・夕涼みモルック 令和 5 年（2023 年）8 月 19 日 参加者 56 人 ・太田川健康ウォーキング 令和 5 年（2023 年）10 月 22 日 参加者 100 人 ・市民モルック大会 令和 5 年（2023 年）10 月 29 日 参加者 109 人 ・体力テスト&ニュースポーツ体験会 令和 6 年（2024 年）3 月 18 日 参加者 123 人 以上の活動の他にも、市や地域のスポーツ活動に関わるとともに、知多北地区スポーツ連絡協議会の活動を通じて、近隣市町との交流及び情報交換を実施した。			

番号	3	事業名	スポーツ推進委員会設置事業
		事業費	7,524 千円（当初:9,044 千円）
目標に対する評価	東海市民体育館の改修工事により開催場所を変更したため、参加者人数が減少したイベントもあるが、その他のイベントやスポーツ推進委員の派遣により、ニュースポーツ（モルック）の認知を令和5年度でより一層広めることができた。		
課題・改善点	引き続き、ニュースポーツ（モルック）を幅広い世代に認知してもらうため、イベント等の内容の充実に努める必要がある。 また、ウォーキングに関しては、参加者数が年々減少傾向にあるため、増やせるよう、スポーツ推進委員と検討していく必要がある。		

単位施策 15-2 スポーツで活躍する人を支援する

【スポーツ課】

番号	1	事業名	愛知万博記念市町村対抗駅伝大会派遣事業	事業費	1,475 千円
令和5年度(2023年度)の計画・目標	一般社団法人スポーツクラブ東海陸上競技部や愛知製鋼陸上競技部の協力のもと、練習会、合宿、記録会及び選手選考会を行い、新たな小中学生の選手の発掘、競技力の向上及び選手の育成を図る。また、本大会において、5位入賞を目指す。				
実施内容	・長距離練習会 開催日：6月～9月の第1・3水曜日 延べ参加人数：157人 ・東海市チャレンジ陸上記録会 開催日：令和5年（2023年）6月24日 参加人数：57人 ・クロスカントリー記録会 開催日：令和5年（2023年）7月15日 参加人数：31人 ・代表候補選手強化合宿 開催日：令和5年（2023年）8月17日～19日 参加人数：22人（選手14人 スタッフ8人） ・東海市代表選手選考会 開催日：令和5年（2023年）9月17日 参加者：31人				
目標に対する評価	本大会では、市の部で14位という結果で目標の順位に届かなかったが、選手団の結成に向けた練習会や記録会に多くの参加者を募ることができ、新たな選手の発掘や育成、競技力の向上が図れた。				
課題・改善点	引き続き、本事業を通して新たな選手の発掘及び育成に努め、次回大会での5位以内入賞に向け、記録会等への参加者が増えるよう、記				

番号	1	事業名	愛知万博記念市町村対抗駅伝大会派遣事業	事業費	1,475 千円
録会等の内容の充実に努める必要がある。					

【スポーツ課】

番号	2	事業名	ふるさと大使等スポーツ連携交流事業	事業費	2,288 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	市民と東海市ふるさと大使が交流する事業を実施することで、東海市ふるさと大使である企業チームの認知度を高め、応援していく機運を醸成し、市民の一体感や活力を生み出すとともに子どもたちに夢やスポーツの楽しさを伝える。また、東海市ふるさと大使を中心に包括連携協定を締結している東レなどのトップアスリートチームや地域の優れた人材と協力し、技術指導や試合観戦をすることで、小中学校の競技力の向上や将来トップアスリートになることを目標とする意識の向上を図る。				
実施内容	【ふるさと大使等（企業チーム）によるスポーツ教室】 市内企業チーム等によるスポーツ教室を実施 ・日本製鉄東海 REX（2回、延べ参加人数 338人） ・愛知製鋼陸上競技部（1回、参加人数 25人） ・大同特殊鋼ハンドボール部フェニックス（1回、参加人数 70人） ・東レアローズ女子（1回、参加人数 158人） 【ふるさと大使（企業チーム）との交流】 日本製鉄東海 REX、愛知製鋼陸上競技部、大同特殊鋼ハンドボール部フェニックスが一同に介したスポーツ交流事業（Fan!Fun!Fan!）を実施（参加人数 91人） 【ふるさと大使等（企業チーム）の試合観戦】 Vリーグ（東レアローズ対NECレッドロケッツ）の試合観戦を実施（参加人数 59人） 【トップアスリート講習会】 2003年全日本剣道選手権優勝の近本功氏による剣道講習会を実施（参加人数 110人） 【スポーツ指導者によるスポーツ教室及び指導者講習会】 スポーツクラブ東海の各競技部による小中学生を対象とした技術指導及び指導者に対する講習会を実施（8競技、延べ参加人数 492人）				
目標に対する 評価	市内企業チーム等によるスポーツ教室を各1回開催することができたほか、試合観戦やFan!Fun!Fan!の実施等により、多くの子供たちがトップアスリートと触れ合うことができ、子どもたちの体力や技術の向上を図ることができた。				
課題・改善点	引き続き、ジュニア世代にトップアスリートと触れ合う機会を多く				

番号	2	事業名	ふるさと大使等スポーツ連携 交流事業	事業費	2,288 千円
	与えられるよう、市内企業チーム等と連携し、子どもたちの体力や技術の向上を図る必要がある。				

施策 16 文化に親しみ心豊かなまちをつくる

単位施策 16-1 市民の文化芸術活動を支援する

【文化芸術課】

番号	1	事業名	文化祭開催補助事業	事業費	5,600 千円
令和 5 年度 (2023 年度) の 計画・目標	市民参画による発表・創造活動が展開され、街全体に賑わいがあふれるようにするため、市民文化活動の発表及び鑑賞の場、交流の場として開催する東海市文化祭に対して補助する。				
実施内容	開催日：令和 5 年(2023 年)11 月 4 日～5 日 場 所：東海市民体育館、東海市立勤労センター多目的ホール 内 容：日頃の成果発表の場、発表作品の鑑賞の場として、以下のとおり展示等を行った。 【文芸部門】詩作大会、短歌大会、俳句大会、川柳大会 【美術部門】絵画展、書道展、写真展、工芸展、切手・絵手紙展、市民茶会、華道展、草樹展、小中学校児童生徒造形・書写秀作展 その他、似顔絵コーナーや沖縄体験学習コーナーを設置した。				
目標に対する 評価	新型コロナウイルス感染症が 5 類に引き下げられてから初めての開催となり、コロナ禍で開催した令和 4 年度(2022 年度)に比べ、作品数、出品者数、来場者数のすべてが増加となり、幅広く市民に文化・芸術活動に触れる機会を提供することができた。まだまだコロナ禍前の水準には達していないため、街全体にコロナ禍前の賑ぎわいが溢れるよう、引き続き、市民文化活動の発表及び鑑賞の場、交流の場として開催する東海市文化祭に対して補助していきたい。				
課題・改善点	令和 6 年度(2024 年度)は、東海市民体育館の工事が終了し、例年どおりの開催に戻るため、会場レイアウトを関係団体と調整する必要がある。また、展示を中心とした文化祭の形式から、来場者が文化的な体験ができるワークショップなどを継続して実施し、新しい文化祭のかたちづくり、次世代への継承などを行っていく必要がある。				

単位施策 16-2 感動が生まれる文化芸術を提供する

【文化芸術課】

番号	1	事業名	芸術劇場自主文化(鑑賞・にぎわい)事業	事業費	70,054 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	文化創造プランを踏まえ、市民が優れた文化芸術に身近に参加・体験ができ、市民参画による発表・創造活動が展開され、街全体に賑わいがあふれるようにするため、「ひとづくり」「にぎわいづくり」「生きがいくくり」の理念を掲げ、東海市芸術劇場において、様々な事業を実施する。				
実施内容	「東海市ひとづくりパートナーシップ」を締結した公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団と吉本興業株式会社を中心に鑑賞・にぎわい事業等を実施した。 【公演】 ・諏訪内晶子ヴァイオリン・リサイタル、カニサレス・フラメンコギター、キーウ・クラシック・バレエ、ポップス・コンサート、吉本新喜劇&バラエティ、0歳からのわくわくオーケストラ等、29公演を実施(実入場者数 11,767 人、入場率 68.5%) ・交流パフォーマンス 271 回(実出演者 592 人、入場者数 4,239 人) 【美術展】 ・東海市文化祭美術部門入賞作品展覧会(出品者数 33 人、入場者数 201 人) ・木之下晃メモリアル 公募写真展(出品者数 24 人) ・交流ギャラリー 16 展示				
目標に対する 評価	幅広いジャンルの事業を実施し、様々な年代層の方の参加があり、「にぎわいづくり」をはじめとした芸術劇場の理念に結びつけることができた。令和5年度(2023年度)は特に、ノトス・カルテットをはじめとした、世界の第一線で活躍する最高峰のアーティストの演奏を安価で提供することができ、幅広い市民が優れた音楽作品を身近に感じることができた。				
課題・改善点	「ひとづくり」「にぎわいづくり」「生きがいくくり」の理念の実現に向け、中長期的な事業展開が必要であることから、継続して実施する必要がある。また、新たな分野も含めた公演等を実施することで、芸術劇場の認知度を向上させつつ「にぎわいづくり」を図っていく必要がある。				

【文化芸術課】

番号	2	事業名	芸術劇場自主文化(ひとづくり)事業	事業費	40,957 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	文化創造プランを踏まえ、市民が優れた文化芸術に身近に参加・体験ができ、市民参画による発表・創造活動が展開され、街全体に賑わいがあふれるようにするため、「ひとづくり」「にぎわいづくり」「生きがいくづくり」の理念を掲げ、東海市芸術劇場において、様々な事業を実施する。				
実施内容	「東海市ひとづくりパートナーシップ」を締結した公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団と吉本興業株式会社を中心に、次代の文化芸術を担う人材育成を中心とするひとづくり事業を実施した。 【公演】 ・東海児童合唱団定期演奏会、東海市子どものオーケストラ定期演奏会、TOKAI DANCE PROJECT、東海市民合唱団定期公演、劇場招待コンサート（市内全小学5年生、中学2年生）の6公演（実入場者数4,793人、入場率62.4%） 【ワークショップ等】 ・芸術劇場を拠点とする4団体（東海市子どものオーケストラ、東海市民合唱団、東海児童合唱団、東海市ダンスチームMiakot）（延べ参加者数14,879人） 【アウトリーチ】 ・出会いの教室（市内全小学校4年生、適応指導教室「ほっと東海」を対象に全38回実施）（延べ参加者数1,047人） ・よしもと流楽しいコミュニケーション（三ツ池小学校、横須賀小学校、船島市民館、下名和公民館で全6回実施）（延べ参加者数657人） ・ふれあいコンサート（市内福祉施設等で全4回実施予定）（延べ参加者数213人） ・おんがくさんはじめてコンサート（市内保育園で全6回実施予定）（延べ参加者数504人）				
目標に対する 評価	ふれあいコンサートは、令和4年度（2022年度）は一部芸術劇場での開催となったが、令和5年度（2023年度）は、各施設で計4回実施することができ、日頃劇場へ足を運ぶことが困難な方に対しても文化芸術に触れる機会を提供することができた。				
課題・改善点	「ひとづくり」「にぎわいづくり」「生きがいくづくり」の理念の実現には、中長期的な事業展開が必要であることから、引き続き芸術劇場を拠点として、長期にわたり質の高い文化芸術を提供していく。特に次世代の子どもたちが早期に文化芸術に親しむ環境をつくり、人材を育成し、市民主体の文化芸術の振興を図る必要がある。				

施策 17 郷土の歴史や文化を大切に継承する

単位施策 17-1 伝統文化を大切に守る

【文化芸術課】

番号	1	事業名	子ども芸能発表会開催事業	事業費	650 千円
令和 5 年度 (2023 年度) の 計画・目標	子どもたちが日ごろ取り組んでいる文化活動等の成果を発表することで、経験と自信につなげ、文化活動の普及や伝統芸能の継承を図るとともに、夢を持つ心を育むことを目的とし、子ども芸能発表会を開催する。				
実施内容	市内の小中学校、公民館・市民館、文化協会、各地域で活動している子どもたちが、日ごろ取り組んでいる伝統芸能や文化活動を芸術劇場大ホールで発表し、出演団体の展示コーナーをホールロビーに設置した。また、プロの公演として、「小林芙未香（東海市出身）」氏が歌唱を行った。 出演団体数 20 団体 出演者 454 人 来場者 1,513 人				
目標に対する 評価	子どもたちによる日頃の練習成果の発表を、普段あまり経験することができない大きな舞台で一堂に発表・鑑賞することができ、また、普段あまり接する機会の少ない団体（和の団体は洋の団体、洋の団体は和の団体）の演技を鑑賞することで子どもたちにとって良い刺激になり、達成感や自信に繋がり良い経験に繋がった。 さらに、大ホールホワイエに各団体の活動紹介展示コーナーを設けることにより、出演団体の活動が分かるだけでなく、各地域で継承されている舞や、学校で受け継がれている伝統芸能等の紹介を行うことができた。 また、プロの公演では、「小林芙未香（東海市出身）」氏の歌唱を聴くことで、心に響く貴重な体験となった。また、地元出身の出演者が夢を叶えて、活躍している姿を観てもらうことで、努力し続けることの大切さや、夢を叶えることの素晴らしさを伝えることができた。				
課題・改善点	演目によっては、場面転換、来場者の入場に時間がかかることがあり、公演時間が長くなってしまうことがあったため、来年度以降は、場面転換時間等のバランスを考え、出演順を設定する必要がある。また、例年より出演団体数が増加した場合に、公演時間が延長しないよう、円滑に進行させるための工夫や、長時間の観覧が観客の負担にならないような方法を検討する必要がある。				

単位施策 17-2 郷土の歴史と文化に親しむ

【社会教育課】

番号	1	事業名	文化財保存・普及事業	事業費	11,473 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	東海市の貴重な文化財を後世に引き継ぎ、文化財への関心を高めてもらうため、保存事業への補助及び普及事業を実施する。				
実施内容	文化財・埋蔵文化財(遺跡)の維持管理及び所有・管理者への補助事業を実施した。 市道建設予定地内に所在する高ノ御前遺跡(大田町)の発掘調査を実施した(令和4年度繰越明許費)。 老朽化した文化財表示看板(大門組山車、常蓮寺、普済寺)の板面を更新した。 文化財防火デーに合わせて、東海市立平洲記念館・郷土資料館で文化財防火訓練を実施した。				
目標に対する 評価	文化財等の維持管理及び所有・管理者への補助事業により適正な保存を図ることができた。 高ノ御前遺跡の発掘調査を実施し、貴重な埋蔵文化財の情報を記録保存することができた。 老朽化した文化財表示看板の板面を更新することで文化財の普及活用に資することができた。 また、文化財防火訓練を東海市立平洲記念館・郷土資料館で実施し、貴重な文化財に対する防火意識の高揚に寄与した。				
課題・改善点	今後も文化財等の適正な保存を図るとともに、継続的に普及啓発を実施し、普及啓発事業の内容の検討をする。				

【社会教育課】

番号	2	事業名	細井平洲顕彰事業	事業費	2,734 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	細井平洲先生の嚶鳴の教えを生かした交流を進め、全国への情報発信、ふるさと東海市への愛着を深めるため実施する。				
実施内容	作家の童門冬二氏に平洲記念館名誉館長を委嘱し、ホームページに「童門冬二の平洲塾」を月1回紹介したり、全国誌「歴史街道」に記事掲載をしたりするなど細井平洲先生の遺徳を顕彰する事業を実施した。令和5年度(2023年度)については童門冬二氏の年齢を考慮し、講演会やビデオ講演の代替として、平洲記念館来館者等への配布を目的としたリーフレットを作成した。				
目標に対する 評価	著名な作家童門冬二氏が平洲記念館名誉館長として、執筆活動等を通じて広報していただくことにより、細井平洲先生の遺徳を市内外に広く顕彰することができた。				

番号	2	事業名	細井平洲顕彰事業	事業費	2,734 千円
課題・改善点	今後も、童門冬二氏の指導及び助言により、細井平洲先生の遺徳を顕彰する事業を展開するとともに、平洲関係の講座等を引き続き実施する。また、嚶鳴広場(東海市芸術劇場内)で実施する事業と連携することで事業効果の拡大を検討する。				

【社会教育課】

番号	3	事業名	嚶鳴広場各種講座等開催事業	事業費	3,119 千円
令和5年度 (2023年度)の 計画・目標	嚶鳴広場において、童門冬二氏を顧問とし、細井平洲先生を始め全国各地の先人の教えや歴史をわかり易く発信するために、各種展示事業等を行うもの。 常設展示だけではなく、特別展示を行うことにより広く情報発信すると共に、来場者に飽きのこない施設運営を図る。				
実施内容	嚶鳴広場における童門冬二氏の図書及び資料の展示や各種講演会、特別展示等を実施した。 ・「童門冬二の嚶鳴講座」 3回 ・特別展示 2回 (山本蘇門と細井平洲 等) ・企画展示 2回 (登録有形文化財 等)				
目標に対する 評価	講師都合により、10月開催予定であった第1回の講座は中止となったが、講義予定であった内容の資料を郵送し、文書開催という形で代替の方法にて、細井平洲先生をはじめ全国各地の先人の教えや歴史に触れていただける機会を提供できた。				
課題・改善点	先人の教えや歴史を市民及び全国へ広く発信・顕彰するために、市民等のニーズに即した様々な展示、講演会、講座等を開催していく。				